

岐阜市スポーツ施設個別施設計画

令和3年3月

岐 阜 市

目次

第1章 計画の概要	1
1-1 背景・目的	1
1-2 計画の位置付け	2
1-3 対象施設の設定	3
1-4 計画期間	3
第2章 基本情報の把握	4
2-1 対象施設の基本情報	4
2-2 対象施設で行われる競技種別	9
2-3 対象施設の位置図	10
第3章 スポーツ施設の現況評価	11
3-1 スポーツ施設の現状情報の収集・整理	11
(1) 安全性・機能性に関する基本情報（劣化状況）	11
(2) 経済性に関する基本情報	12
(3) 更新に係る費用	15
(4) 耐震性に関する基本情報	16
3-2 スポーツ施設の現状情報に基づく個別施設の方向性に関する検討	17
(1) 個別施設の維持管理の方向性に関する検討	17
(2) 個別施設の整備手法の検討	19
(3) 一次評価結果のとりまとめ	20
第4章 スポーツ施設的环境評価	36
4-1 スポーツ施設に関する政策方針の検討	36
(1) 対象施設の規模・配置計画等の方針	36
(2) 維持管理の基本的な方針	36
4-2 スポーツ施設的环境に関する情報の収集・整理	37
(1) 利用状況	37
(2) 稼働率	38
(3) 防災上の位置づけ	39
(4) 岐阜市と全国における同等の中核市との比較	40
4-3 スポーツ施設の基本方針に関する検討	43
(1) 基本方針の検討	43
(2) 二次評価結果のとりまとめ	44
(3) 地域の現状を踏まえた対象施設の現状と今後の方針整理	44
4-4 基本方針等を踏まえた施設整備の水準の検討	56
(1) 対象施設の整備水準	56
(2) 日常的な維持管理	56

第5章 個別施設計画の検討	57
5-1 施設毎の適用手法の検討.....	57
5-2 今後の対策内容と実施時期（ロードマップ）.....	58
(1) 維持管理における対策の優先順位の考え方.....	58
(2) 今後の維持管理ロードマップ.....	58
第6章 修繕・更新等に係る中長期的な経費の見込み	61
6-1 試算条件.....	61
6-2 今後26年間の対策費用と長寿命化によるコスト縮減効果.....	62
第7章 計画の実施方法	63
7-1 フォローアップの実施方針.....	63
7-2 推進・取組体制.....	63
7-3 情報の見える化.....	63
7-4 施設利用者や住民との情報共有・合意形成の推進.....	64

第1章 計画の概要

1-1 背景・目的

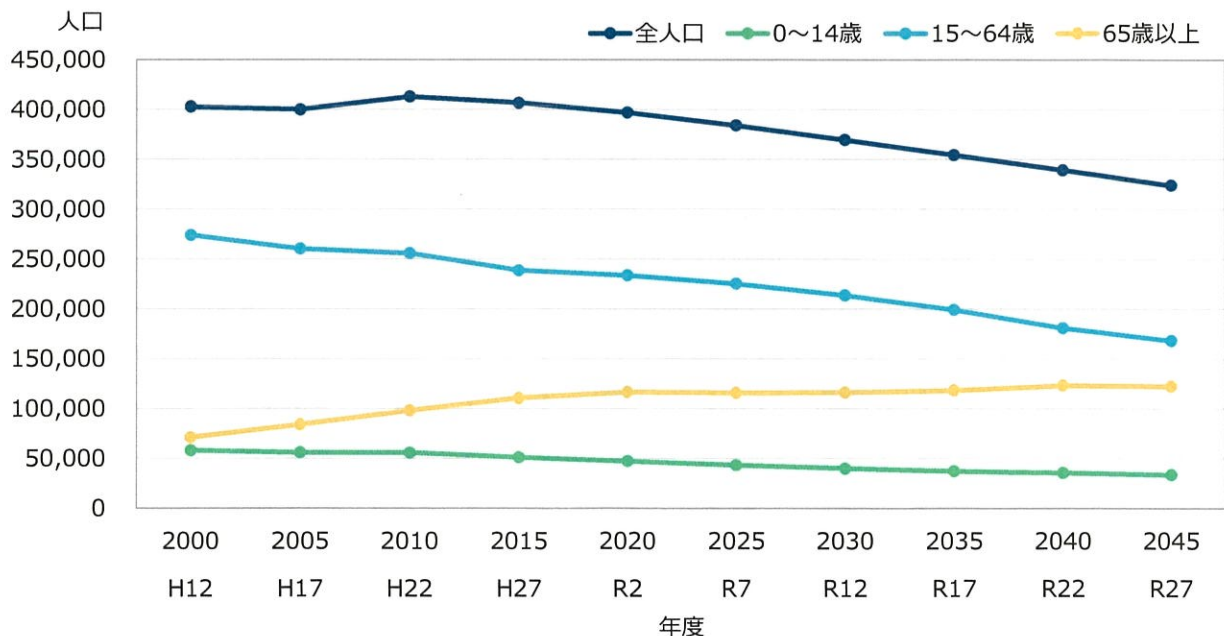
これまで岐阜市では、公共施設の維持管理に関する財源不足や、施設に対する市民ニーズの多様化に対応するための様々な取組を行ってきました。その取組の中で、公共施設維持管理の今後の戦略として、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもってこれらの総合的かつ計画的なマネジメントを推進するため、平成29年に「岐阜市公共施設等総合管理計画」（以降、「総合管理計画」とする）を策定しました。

また、人生100年時代を標榜し、スポーツを通じて生涯にわたって心身ともに豊かな生活を送れる仕組みを構築することで、健康寿命の長い「健幸都市」・生涯スポーツ社会の実現を目指すため、平成31年には「岐阜市スポーツ推進計画」を立案しました。

一方で、少子化による公共施設の財源不足、担い手不足等が全国的に社会問題となっている昨今、その問題は岐阜市でも例外ではありません。下図に示す通り、岐阜市の人口は平成22年度をピークに、年々減少していくことが予想されています。

本計画は、目指すべき社会を実現するために必要となる岐阜市のスポーツ施設の老朽化に伴う安全性の確保と、将来的な人口減少による財政負担の軽減・平準化を図るため、各施設の修繕・更新等に関わる今後の具体的な方針を定めることを目的とします。あわせて、前述の両計画の実践に向けて、今後の社会情勢の変化に伴う施設ニーズの変化や現在の配置状況等を踏まえ、スポーツ施設の規模・配置等の適正化に向けた今後の方針を検討します。

【岐阜市の人口の推移と将来の見通し】



(出典) 2000年～：国勢調査

2020年～：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30年3月推計）より作成

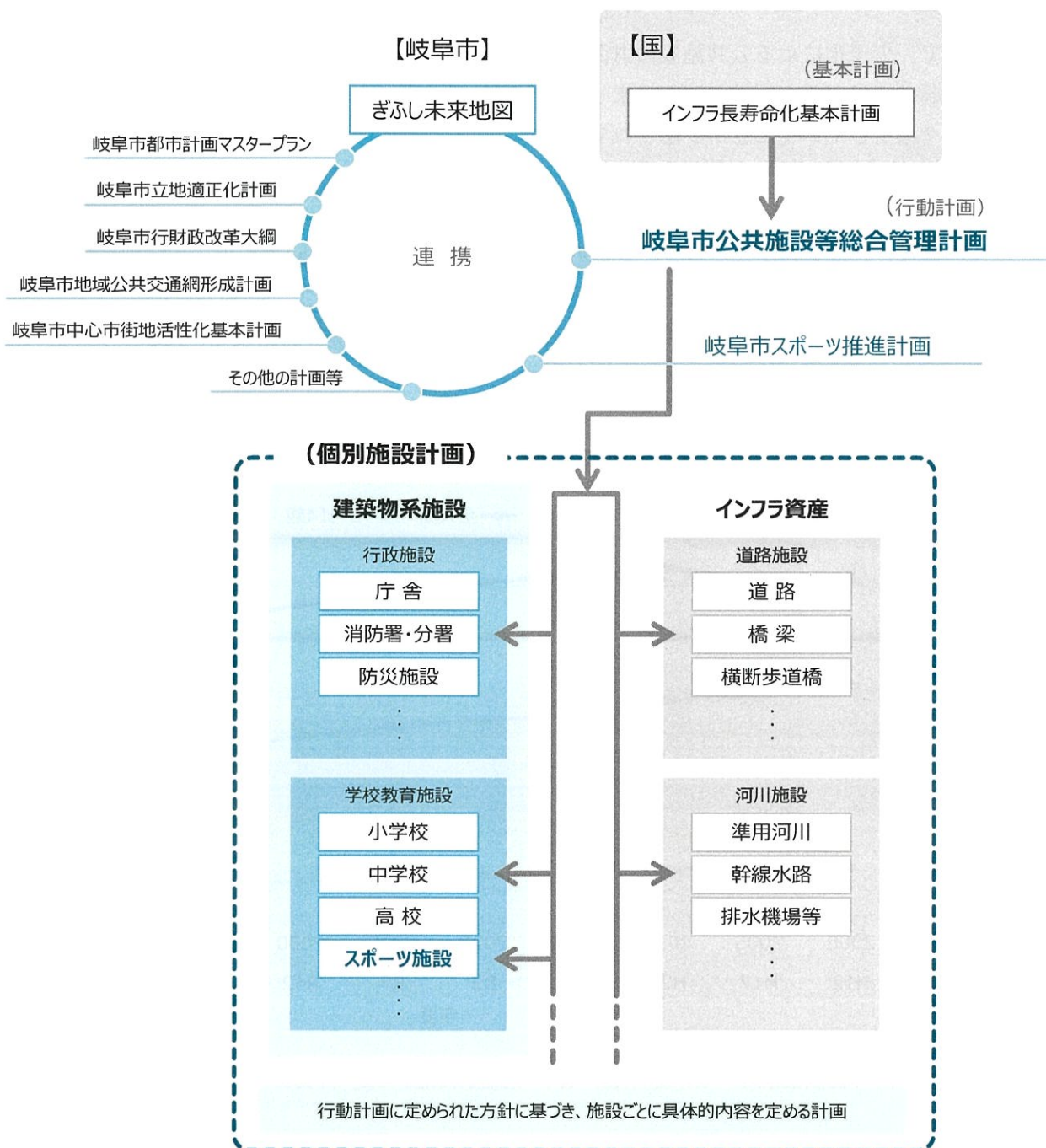
1-2 計画の位置付け

本計画は、総合管理計画の方針を踏襲し、計画にある全施設の中からスポーツ施設に着目し、スポーツ施設の維持管理に係る具体的な計画を定めるものです。

総合管理計画を市の施設管理の最上位計画として準拠しながら、岐阜市の総合計画である「ぎふし未来地図」、「岐阜市都市計画マスタープラン」、「岐阜市立地適正化計画」、「岐阜市行財政改革大綱」、「岐阜市地域公共交通網形成計画」及び「岐阜市中心市街地活性化基本計画」等その他の計画と相反が無いように連携します。

また、岐阜市スポーツ施設推進計画の理念を理解し、これらの計画と整合を図りながらスポーツ施設の在り方を検討します。

【岐阜市個別施設計画の位置づけ】



1-3 対象施設の設定

本計画は、総合管理計画に示されるスポーツ施設のうち、体育館 12 施設とプール 3 施設の合計 15 施設を対象とします。具体的な対象施設は下表の通りです。

【対象施設一覧】

No.	施設名称	施設種別
1	岐阜市民総合体育館	体育館
2	西部体育館	体育館
3	東部体育館	体育館
4	南部スポーツセンター	体育館
5	もえぎの里多目的体育館	体育館
6	もえぎの里体育館	体育館
7	北部体育館	体育館
8	北西部体育館	体育館
9	岐阜ファミリーパーク体育館	体育館
10	岐陽体育館	体育館
11	体育ルーム	体育館
12	岐阜市スポーツ交流センター	体育館
13	本荘市民プール	プール
14	南部市民プール	プール
15	北部市民プール	プール

1-4 計画期間

本計画は今後 30 年間を見据えた令和 32 年度までの計画とします。総合管理計画の期間と整合させるため、令和 3 年度から令和 8 年度までの 6 年間の第 1 期とし、その後 5 年毎に第 6 期まで設定します。

【計画期間】



第2章 基本情報の把握

2-1 対象施設の基本情報

対象施設のうち、最も延床面積が大きい施設は、岐阜市民総合体育館です。

鉄筋コンクリート（RC）造の建物が全体の73%を占めており、その他は鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）造が20%、鉄骨（S）造が7%です。

建築物の法定耐用年数はその構造や用途によって異なりますが、体育館の場合、S造は34年、RC造及びSRC造は47年と定められています。一方で、安全・快適に使用し続けることのできる年数は、利用方法や修繕等の実施状況などにより大きく異なりますが、本市の総合管理計画では適切な維持管理を行うことを前提に、目標耐用年数を80年と設定しています。本計画の対象施設の中では、1970年建設の岐阜市民総合体育館が最も古い施設であり、供用開始から50年経過しているため、法定耐用年数を超える高齢施設と言えます。

また、対象施設の73%が供用開始から30年以上経過しており、適切な維持管理計画を立てて取り組んでいく必要があります。

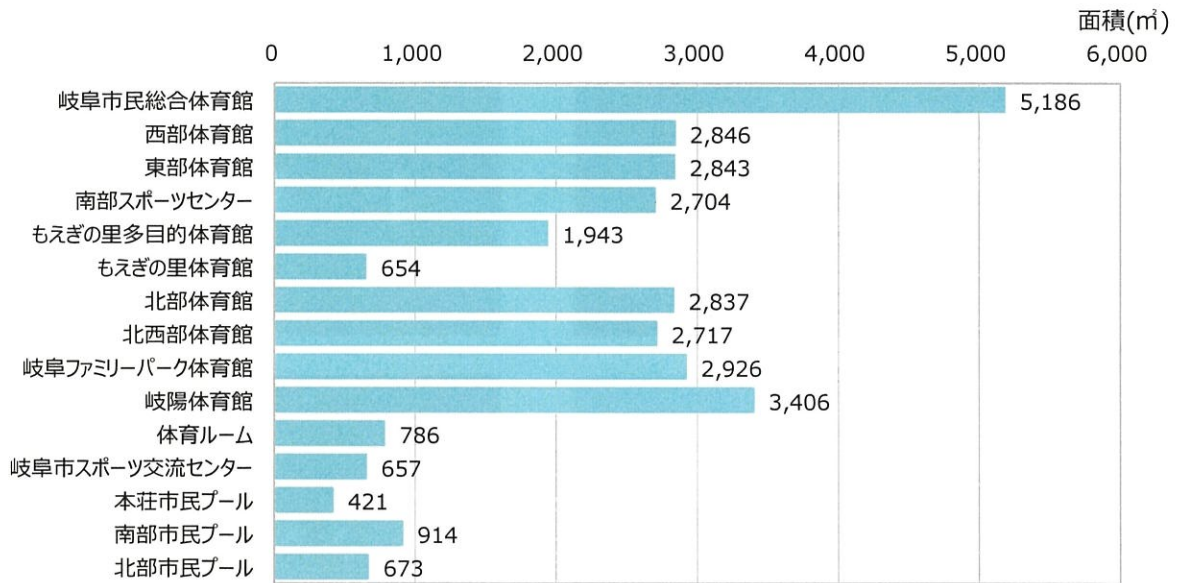
【体育館の耐用年数目安】



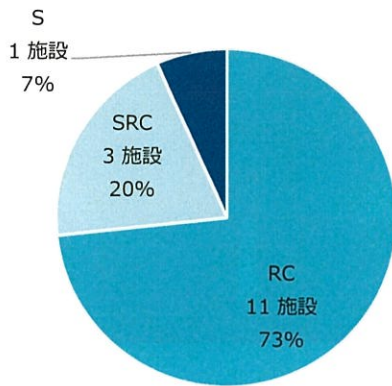
【対象施設の基本情報】

施設名称	構造	建築年	供用年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	競技エリア面積(㎡)	地上階
岐阜市民総合体育館	RC	1970	50	4,134	5,186	1,080	3
西部体育館	RC	1984	36	6,710	2,846	1,224	3
東部体育館	RC	1983	37	5,423	2,843	1,224	2
南部スポーツセンター	RC	1978	42	6,616	2,704	1,224	2
もえぎの里多目的体育館	RC	2015	5	6,863	1,943	859	2
もえぎの里体育館	RC	2000	20	6,443	654	487	3
北部体育館	RC	1981	39	9,774	2,837	1,058	3
北西部体育館	SRC	1990	30	5,755	2,717	1,224	2
岐阜ファミリーパーク体育館	SRC	1987	33	52,028	2,926	1,296	2
岐陽体育館	RC	1984	36	18,350	3,406	882	2
体育ルーム	RC	2001	19	786	786	-	2
岐阜市スポーツ交流センター	S	2015	5	2,475	657	-	1
本荘市民プール	RC	1980	40	18,545	421	421	1
南部市民プール	SRC	1980	40	10,494	914	914	1
北部市民プール	RC	1986	34	9,774	673	673	1

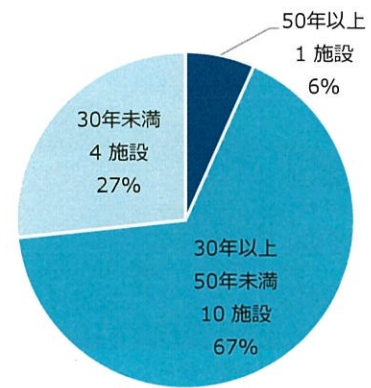
【施設ごとの延床面積】



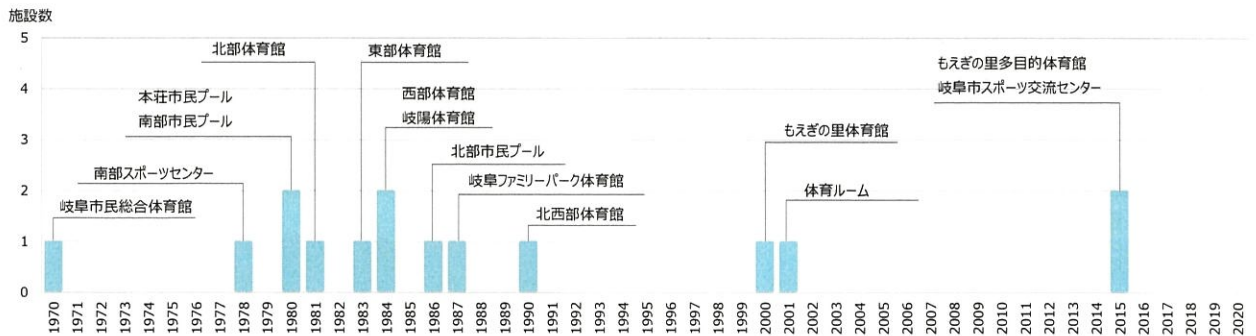
【構造別施設割合】



【供用年数別施設割合】



【建設年度別施設数】



対象施設の外観及び内観写真を次頁以降に示します。

(1) 岐阜市民総合体育館



(2) 西部体育館



(3) 東部体育館



(4) 南部スポーツセンター



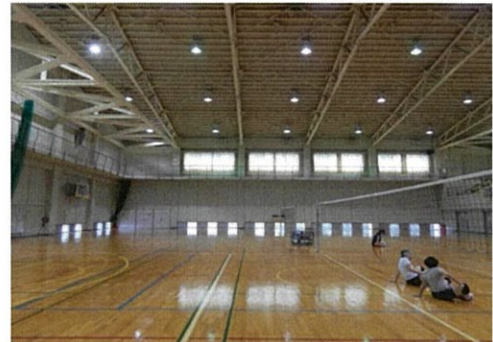
(5) もえぎの里多目的体育館



(6) もえぎの里体育館



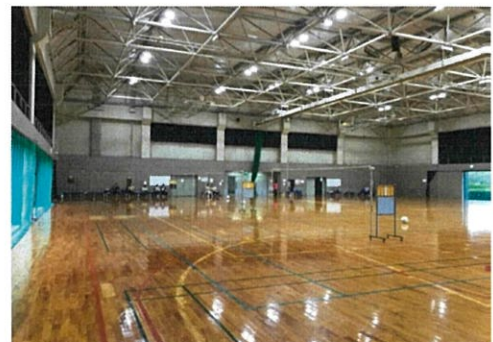
(7) 北部体育館



(8) 北西部体育館



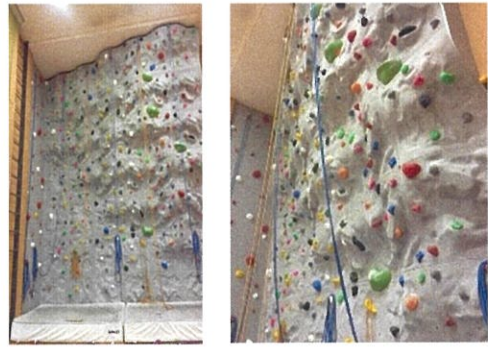
(9) 岐阜ファミリーパーク体育館



(10) 岐陽体育館



(11) 体育ルーム



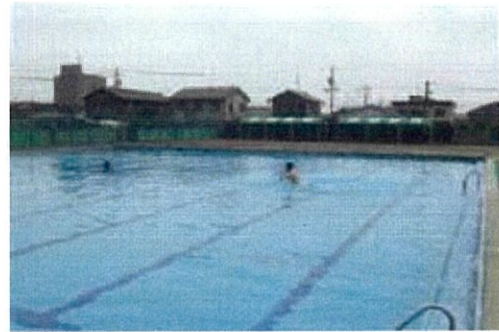
(12) 岐阜市スポーツ交流センター



(13) 本荘市民プール



(14) 南部市民プール



(15) 北部市民プール



2-2 対象施設で行われる競技種別

各施設における競技種類を下表に整理しました。ひとつの施設で対応できる競技数が最も多いのは岐阜市民総合体育館の12競技です。また、一般の体育館では代替できない独自性がある施設としては、岐阜市民総合体育館の弓道場、相撲場、狙撃場等や、岐陽体育館のアーチェリー場、体育ルームのクライミングウォールがあります。市内唯一の競技施設がなくなると、市民の利便性が低下してしまうことが考えられるため、競技施設の独自性は、スポーツ施設の適正化を実施する際に考慮する必要があります。

【施設ごとの競技】

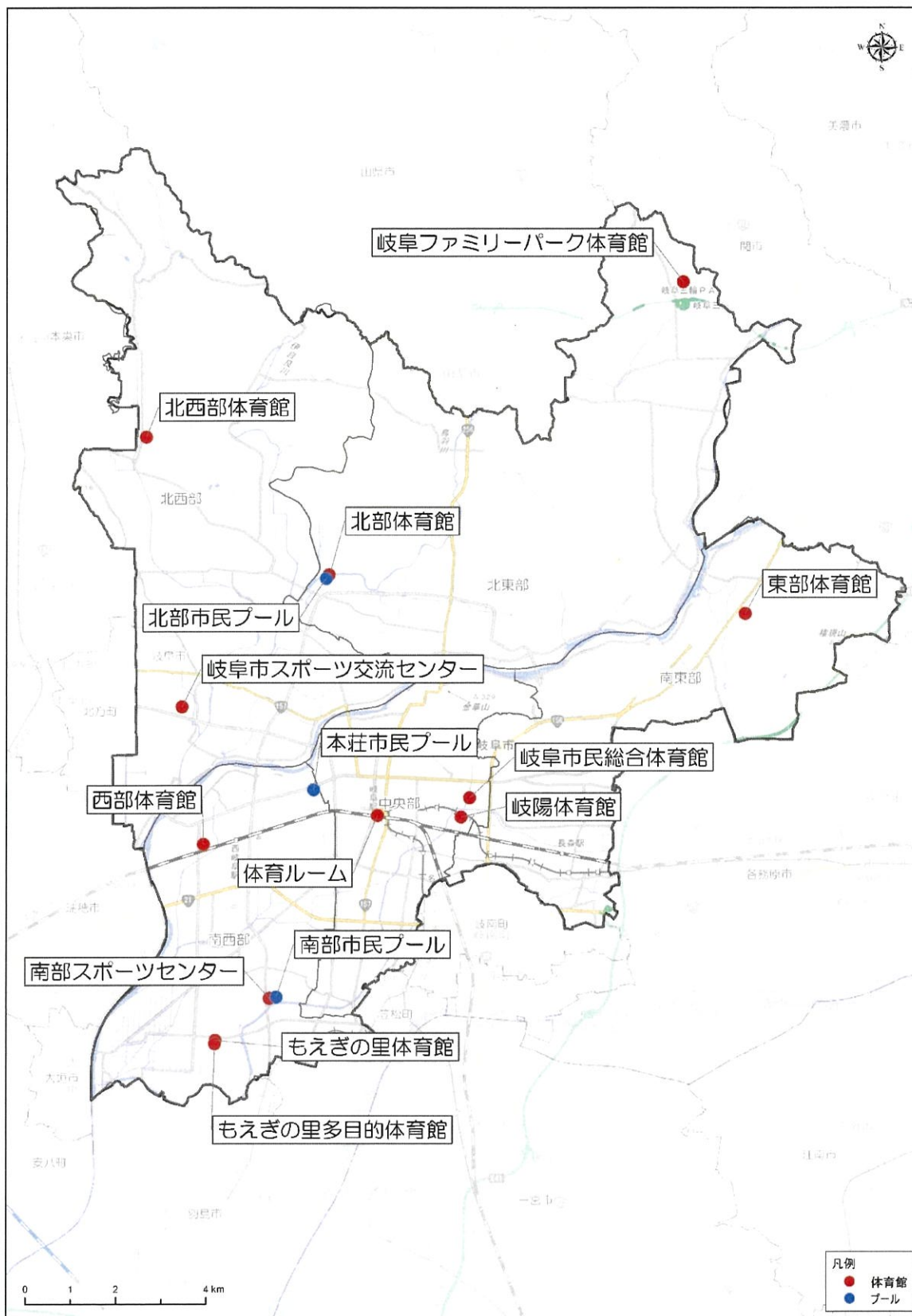
施設名称	バスケットボール	バレーボール	バドミントン	テニス	体操	卓球	フットサル	ハンドボール	柔道
岐阜市民総合体育館	○	○	○	○	○	○	-	-	○
西部体育館	○	○	○	○	○	○	-	-	-
東部体育館	○	○	○	○	○	○	-	-	○
南部スポーツセンター	○	○	○	○	○	○	-	-	○
もえぎの里多目的体育館	○	○	○	-	-	-	○	○	-
もえぎの里体育館	-	-	○	-	-	-	-	-	-
北部体育館	○	○	○	○	-	○	-	-	-
北西部体育館	○	○	○	○	○	-	-	-	-
岐阜ファミリーパーク体育館	○	○	○	○	-	-	-	-	-
岐陽体育館	○	○	-	-	-	○	-	-	-
体育ルーム	-	-	-	-	-	-	-	-	○
岐阜市スポーツ交流センター	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本荘市民プール	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南部市民プール	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北部市民プール	-	-	-	-	-	-	-	-	-
施設数	9	9	9	7	5	6	1	1	4

施設名称	剣道	弓道	相撲	狙撃	アーチェリー	クライミングウォール	トレーニングルーム	プール	競技数
岐阜市民総合体育館	○	○	○	○	-	-	○	-	12
西部体育館	-	-	-	-	-	-	-	-	6
東部体育館	○	-	-	-	-	-	○	-	9
南部スポーツセンター	○	-	-	-	-	-	-	-	8
もえぎの里多目的体育館	-	-	-	-	-	-	○	-	6
もえぎの里体育館	-	-	-	-	-	-	○	-	2
北部体育館	○	-	-	-	-	-	-	-	6
北西部体育館	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岐阜ファミリーパーク体育館	○	-	-	-	-	-	○	-	6
岐陽体育館	-	-	-	-	○	-	-	-	4
体育ルーム	○	-	-	-	-	○	○	-	4
岐阜市スポーツ交流センター	-	-	-	-	-	-	○	-	1
本荘市民プール	-	-	-	-	-	-	-	○	1
南部市民プール	-	-	-	-	-	-	-	○	1
北部市民プール	-	-	-	-	-	-	-	○	1
施設数	6	1	1	1	1	1	7	3	72

2-3 対象施設の位置図

対象施設の位置図を示します。現在、スポーツ施設は岐阜市全域に点在しています。

【対象施設位置図】



第3章 スポーツ施設の現況評価

3-1 スポーツ施設の現状情報の収集・整理

(1) 安全性・機能性に関する基本情報（劣化状況）

岐阜市は、本計画の基礎資料とするため、令和2年度に公共施設劣化診断業務を実施し、市が保有する建築物系施設の躯体の健全度と外観等の劣化度を調査・把握しました。この調査では、各施設の屋根・屋上、外壁、内部仕上げ等の構造物を構築する部材・部位ごとの劣化状況についてA～Dの4段階評価を行いました。加えて、対象部位全ての評価を点数化し、以下の数式で総合劣化度として指標化しました。

【総合劣化度の算出式】

$$\text{総合劣化度} = 100 - \{ \text{各部位の総和} (\text{部位の評価点} \times \text{部位の重要度係数}) \}$$

【部位の評価点】

評価区分	基準	評価点
A	概ね良好	0点
B	部分的劣化	4点
C	広範囲劣化	10点
D	早急対応	25点

劣化

【部位の重要度係数】

部位	重要度係数
屋根・屋上、外壁の仕上げ材	1.00
笠木、ルーフトレイン	0.75
外部建具	0.50
屋上雑、外部雑	0.25
内部仕上げ	0.05

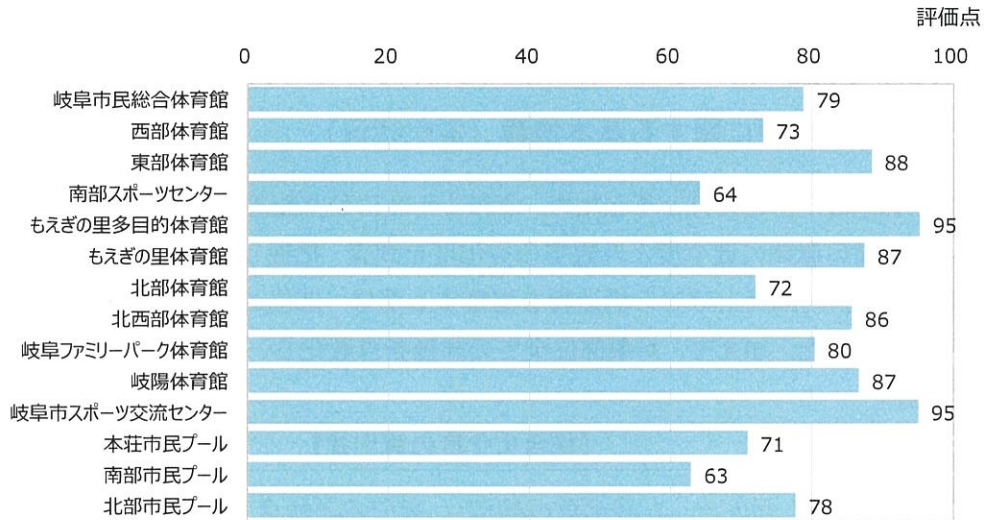
高

総合劣化度の評価点が低いほど、劣化が進んでいるということになります。対象施設の総合劣化度は平均 80 点です。最も新しい施設であるもえぎの里多目的体育館と岐阜市スポーツ交流センターの評価点が高く 95 点、最も評価点が低かったのは南部市民プールの 63 点です。比較的点数の低い施設は、劣化している部位があるため、早期に部位修繕を実施します。中でもD評価の部位については、著しい劣化が見られるため、早急に対応を実施する必要があります。

【劣化度調査結果】

施設名称	建築年	経過年数	総合劣化度	屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
岐阜市民総合体育館	1970	50	79	C	A	D
西部体育館	1984	36	73	C	B	C
東部体育館	1983	37	88	B	B	B
南部スポーツセンター	1978	42	64	D	C	C
もえぎの里多目的体育館	2015	5	95	A	B	B
もえぎの里体育館	2000	20	87	B	B	B
北部体育館	1981	39	72	C	C	B
北西部体育館	1990	30	86	C	B	B
岐阜ファミリーパーク体育館	1987	33	80	B	C	B
岐陽体育館	1984	36	87	B	B	B
体育ルーム	2001	19	-	-	-	-
岐阜市スポーツ交流センター	2015	5	95	A	A	A
本荘市民プール	1980	40	71	C	C	C
南部市民プール	1980	40	63	D	C	C
北部市民プール	1986	34	78	B	C	C

【施設別劣化度】



(2) 経済性に関する基本情報

経済性に関する基本情報として、平成 29 年から平成 31 年までの 3 年間の歳出と歳入状況を整理します。対象施設のうち、もえぎの里体育館ともえぎの里多目的体育館は 2 棟を合わせて 1 施設として利用状況を記録しているため、もえぎの里多目的体育館を代表棟として整理します。

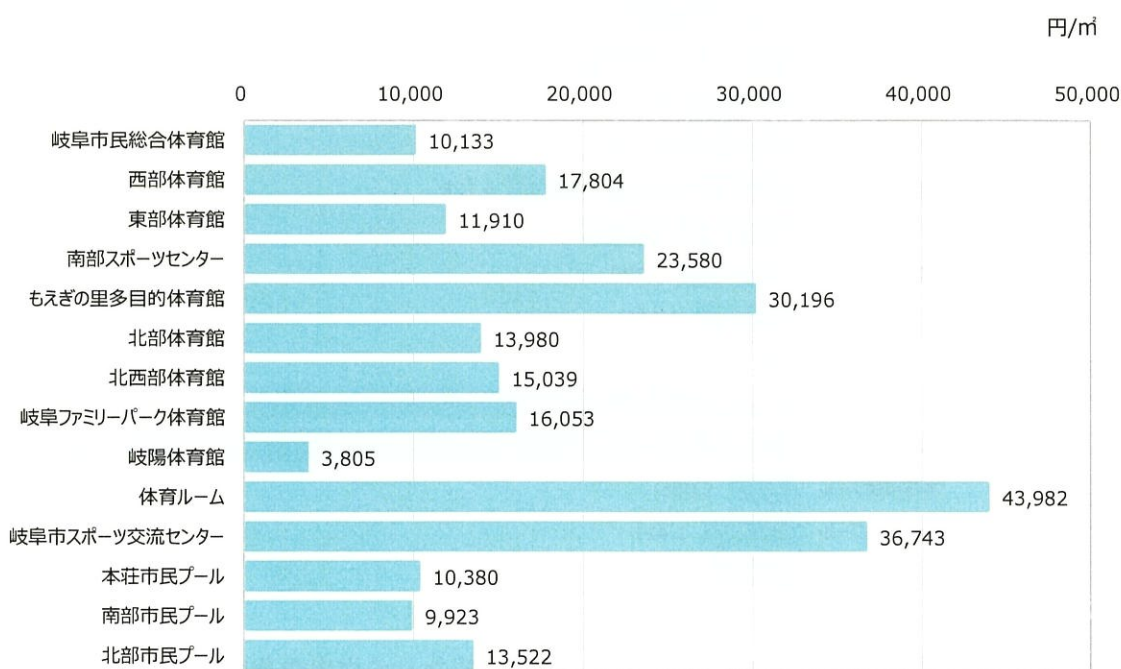
①歳出状況

施設面積あたりの歳出額を見ると、体育ルームが最も高く、43,982円/㎡となっています。体育ルームと岐阜市スポーツ交流センターは、歳出額が突出して高いわけではありませんが、他の施設と比較して延床面積が小さいため、施設面積あたりの平均歳出額が高くなっています。全施設の歳出額の平均は概ね年間2,000～3,000万円台を推移しています。施設面積あたりの歳出額平均は、18,361円/㎡です。

【歳出状況】

施設名称	(万円)				(円/㎡)
	H29	H30	H31	平均	施設面積あたりの平均歳出額
岐阜市民総合体育館	4,551	4,704	6,510	5,255	10,133
西部体育館	6,768	3,401	5,032	5,067	17,804
東部体育館	3,290	3,260	3,608	3,386	11,910
南部スポーツセンター	6,876	3,738	8,514	6,376	23,580
もえぎの里多目的体育館	8,723	4,283	4,595	5,867	30,196
北部体育館	3,711	4,020	4,168	3,966	13,980
北西部体育館	3,987	4,084	4,187	4,086	15,039
岐阜ファミリーパーク体育館	4,938	4,844	4,307	4,697	16,053
岐陽体育館	1,302	1,268	1,319	1,296	3,805
体育ルーム	4,160	3,095	3,114	3,457	43,982
岐阜市スポーツ交流センター	2,417	2,374	2,452	2,414	36,743
本荘市民プール	431	431	449	437	10,380
南部市民プール	924	881	915	907	9,923
北部市民プール	646	1,193	890	910	13,522
平均	3,766	2,970	3,576	3,437	18,361

【施設面積あたりの歳出額平均】



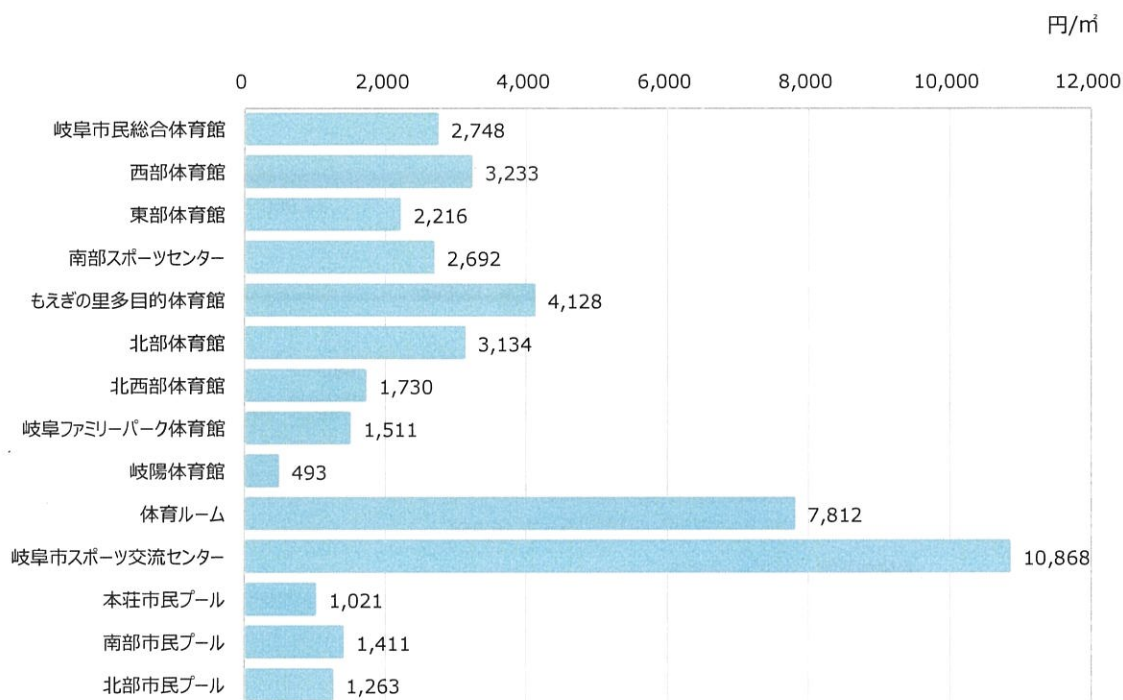
②歳入状況

施設面積あたりの歳入状況を見ると、岐阜市スポーツ交流センターが最も高く、10,868円/㎡となっています。全施設の歳入額の平均は、概ね400～600万円台を推移しています。施設面積あたりの歳入額平均は3,161円/㎡です。

【歳入状況】

施設名称	(万円)				(円/㎡)
	H29	H30	H31	平均	施設面積あたりの平均歳入額
岐阜市民総合体育館	1,627	1,573	1,074	1,425	2,748
西部体育館	974	1,115	671	920	3,233
東部体育館	721	713	457	630	2,216
南部スポーツセンター	769	849	565	728	2,692
もえぎの里多目的体育館	713	823	871	802	4,128
北部体育館	1,007	1,022	638	889	3,134
北西部体育館	501	547	361	470	1,730
岐阜ファミリーパーク体育館	556	365	404	442	1,511
岐陽体育館	161	159	184	168	493
体育ルーム	761	734	346	614	7,812
岐阜市スポーツ交流センター	714	700	726	714	10,868
本荘市民プール	47	43	40	43	1,021
南部市民プール	140	133	113	129	1,411
北部市民プール	84	84	88	85	1,263
平均	627	633	467	576	3,161

【施設面積あたりの歳入額平均】



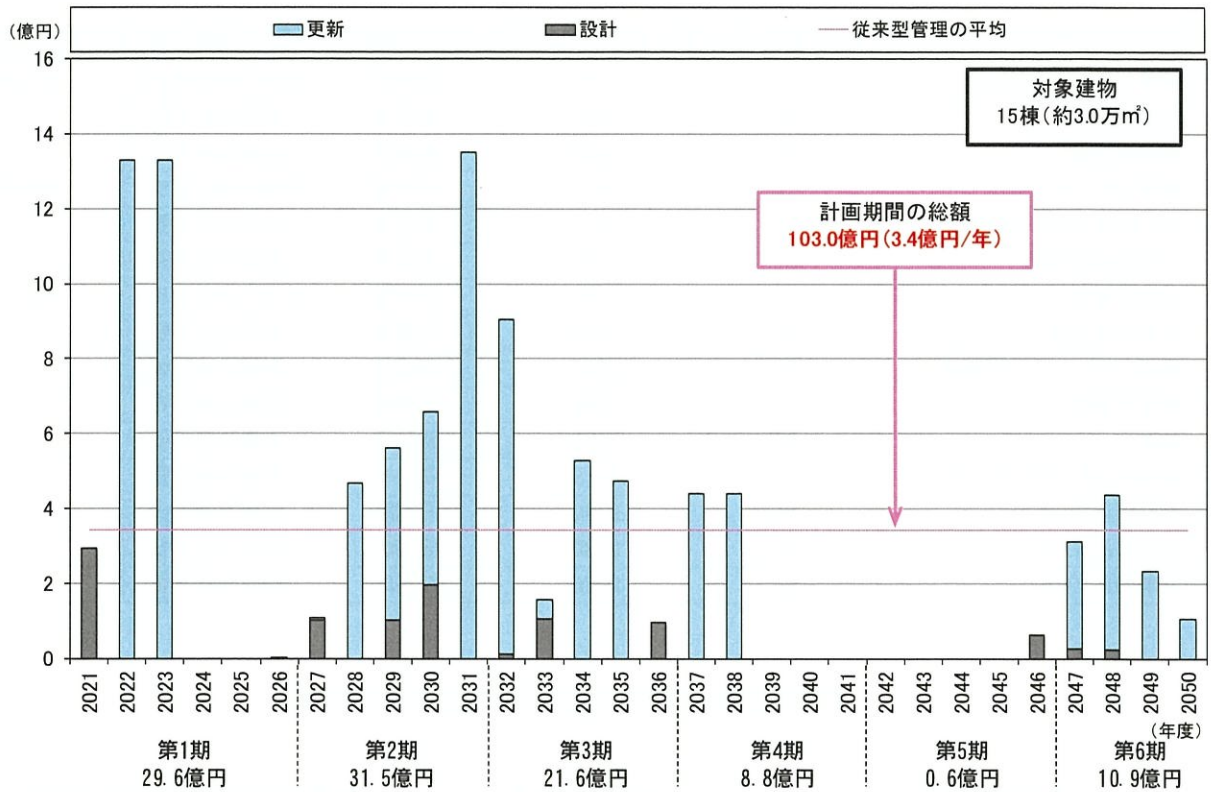
体育ルームと岐阜市スポーツ交流センターの面積当たりの歳出額及び歳入額が他の対象施設よりも高くなっているのは、バレーボールやバスケットボールなどの広いスペースを必要とする団体競技に対応しおらず、延床面積が小さいためと考えられます。

(3) 更新に係る費用

対象施設について、計画期間終了までの今後30年間の施設更新（建替え）に係る経費を試算します。スポーツ施設を含む公共施設全体の試算を総合管理計画で実施しているため、本計画においても同様の条件で試算を行うものとし、更新単価を36万円/m²と設定します。

各対象施設の耐用年数を迎えた時点で更新すると仮定した場合、今後30年間で約103.0億円（平均3.4億円/年）の費用が必要になると見込まれます。現在改修中の総合体育館を含め、定期的な修繕を行い、施設の延命化を図ることが求められます。

【今後30年間の更新費用の試算】



(4) 耐震性に関する基本情報

対象施設の耐震基準、耐震診断結果、耐震改修の状況等を整理します。

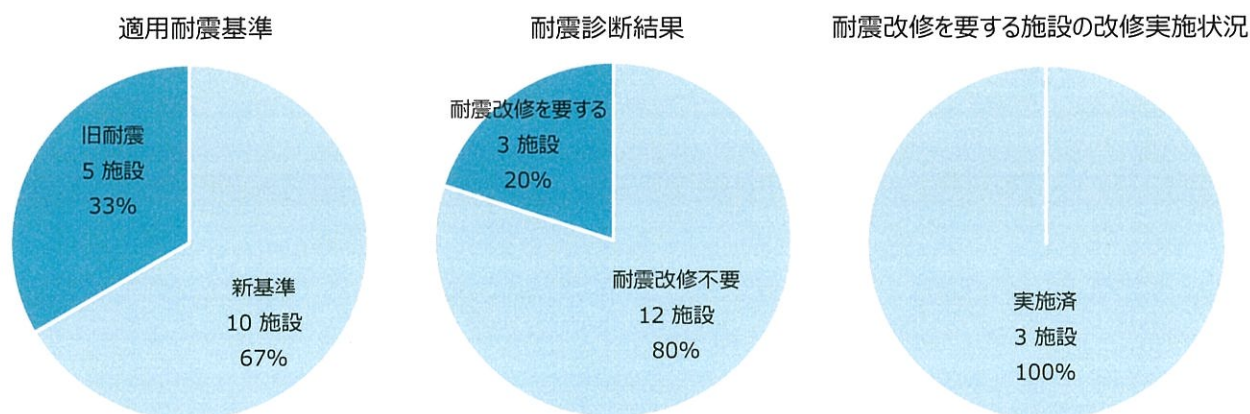
耐震基準とは、建築物の設計段階で、地震に対する建築物の耐久構造の基準を示すものです。旧耐震基準は、震度5強程度の揺れでは建物が倒壊せず、破損したとしても補修することで生活が可能な構造基準として設定されたもので、昭和56年まで適用されていました。新耐震基準は、震度6強～7程度の揺れでも倒壊しないような構造基準として現在適用されています。

対象の15施設のうち、旧耐震基準で設計された建物が5施設、そのうち耐震診断を行い、耐震改修が必要であった施設は3施設です。この3施設に対しては、耐震改修を実施済です。

【耐震状況】

施設名称	構造	建築年	耐震基準	耐震診断結果	耐震改修
岐阜市民総合体育館	RC	1970	旧耐震	耐震改修を要する	実施済
西部体育館	RC	1984	新基準	耐震改修不要	-
東部体育館	RC	1983	新基準	耐震改修不要	-
南部スポーツセンター	SRC	1978	旧耐震	耐震改修を要する	実施済
もえぎの里多目的体育館	RC	2015	新基準	耐震改修不要	-
もえぎの里体育館	RC	2000	新基準	耐震改修不要	-
北部体育館	RC	1981	旧耐震	耐震改修を要する	実施済
北西部体育館	SRC	1990	新基準	耐震改修不要	-
岐阜ファミリーパーク体育館	SRC	1987	新基準	耐震改修不要	-
岐陽体育館	RC	1984	新基準	耐震改修不要	-
体育ルーム	RC	2001	新基準	耐震改修不要	-
岐阜市スポーツ交流センター	S	2015	新基準	耐震改修不要	-
本荘市民プール	RC	1980	旧耐震	耐震改修不要	-
南部市民プール	RC	1980	旧耐震	耐震改修不要	-
北部市民プール	RC	1986	新基準	耐震改修不要	-

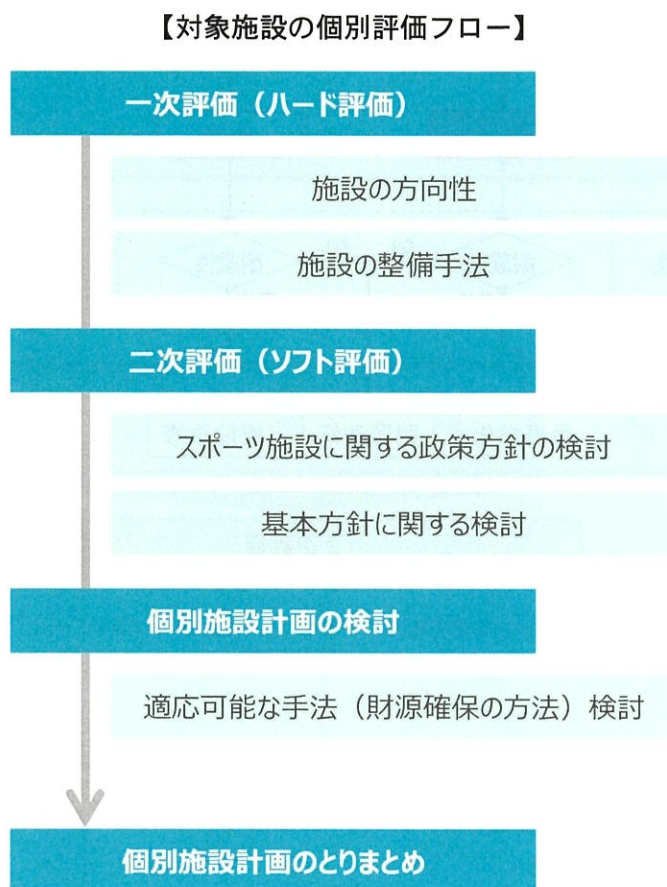
【耐震基準、耐震診断結果、耐震改修の状況】



3-2 スポーツ施設の現状情報に基づく個別施設の方向性に関する検討

対象施設の基本情報を元に、スポーツ庁「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」（平成30年3月）に示された評価フローに従って施設の現状を評価します。

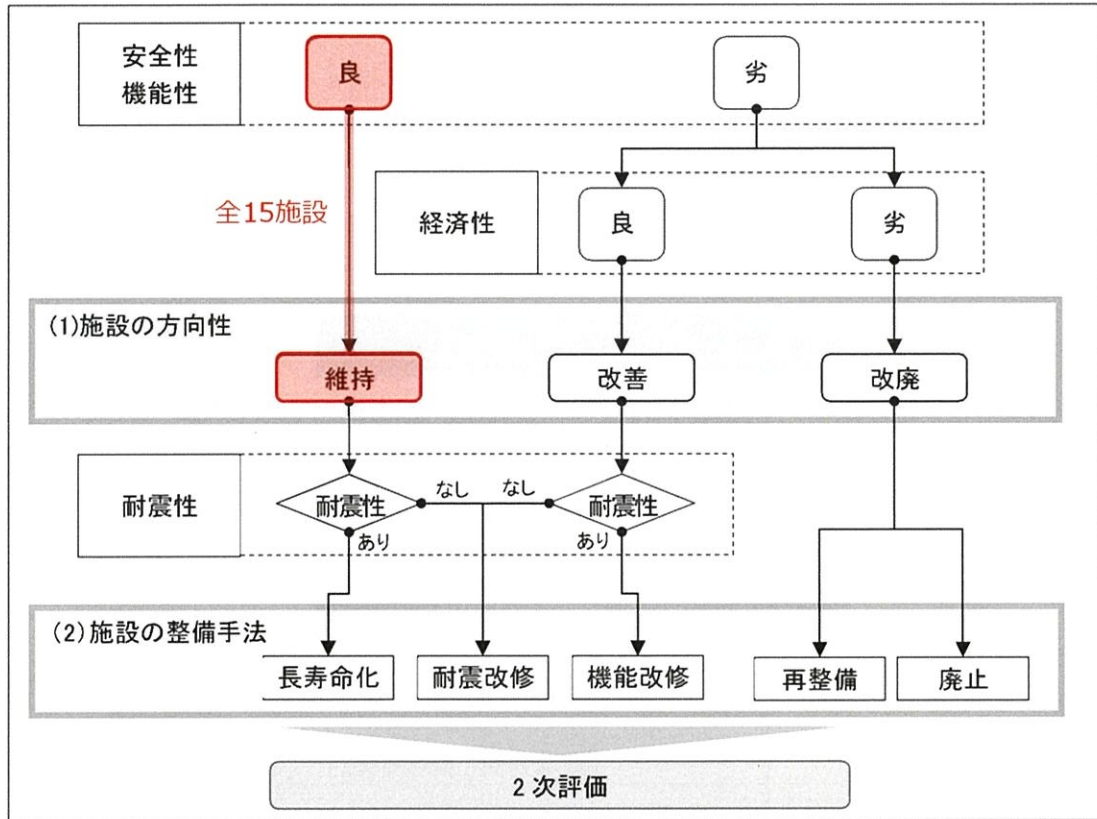
具体的には、「安全性・機能性」、「経済性」、「耐震性」の3項目における評価結果から、対象施設の維持管理の方向性及び整備手法を検討します。



（1）個別施設の維持管理の方向性に関する検討

一次評価における施設の維持管理の方向性は、「安全性・機能性」及び「経済性」について評価します。3-1(1)安全性・機能性に関する基本情報にて先述した劣化状況調査結果より、施設の構造性能を著しく低下する劣化部材はなかったため、すべての対象施設の安全性・機能性を「良」評価とし、今後も施設を「維持」していく方向性とします。

【個別施設の維持管理の方向性検討（一次評価）のフロー】



(出典) スポーツ庁「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」(平成 30 年 3 月)

施設の維持管理の方向性の評価結果を下表に示します。全施設で安全性・機能性が「良」評価であったため、施設の維持管理の方向性は「維持」とします。

【施設の維持管理の方向性の評価結果】

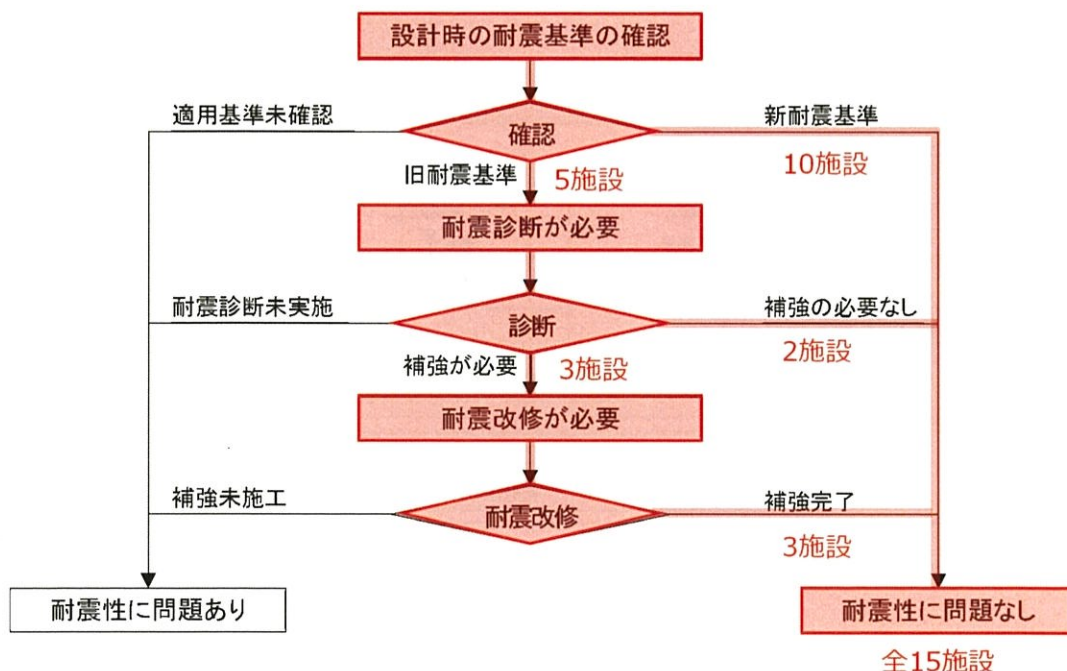
施設名称	建築年	経過年数	総合劣化度	安全性・機能性	施設の方向性
岐阜市民総合体育館	1970	50	79	良	維持
西部体育館	1984	36	73	良	維持
東部体育館	1983	37	88	良	維持
南部スポーツセンター	1978	42	64	良	維持
もえぎの里多目的体育館	2015	5	95	良	維持
もえぎの里体育館	2000	20	87	良	維持
北部体育館	1981	39	72	良	維持
北西部体育館	1990	30	86	良	維持
岐阜ファミリーパーク体育館	1987	33	80	良	維持
岐陽体育館	1984	36	87	良	維持
体育ルーム	2001	19	-	良	維持
岐阜市スポーツ交流センター	2015	5	95	良	維持
本荘市民プール	1980	40	71	良	維持
南部市民プール	1980	40	63	良	維持
北部市民プール	1986	34	78	良	維持

(2) 個別施設の整備手法の検討

施設の整備手法については、耐震性の評価結果により決定します。耐震性の評価は下図のフローに従って判定します。

対象施設の全施設は、耐震性に問題がありません。15 施設のうち 5 施設が旧耐震基準で、うち 3 施設に耐震改修が必要でしたが、3 施設とも補強が完了しています。

【耐震性評価のフローチャート】



(出典) スポーツ庁「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」(平成 30 年 3 月)

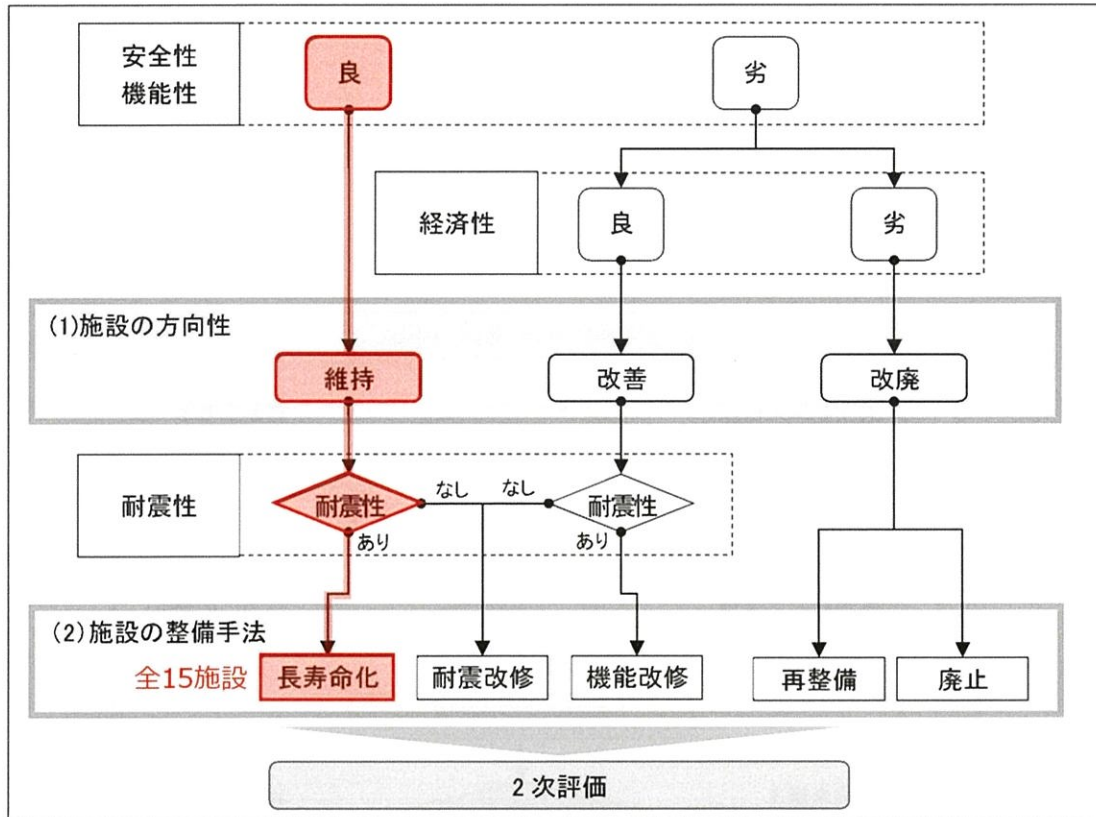
すべての対象施設について耐震性に問題がないため、整備手法は「長寿命化」を採用します。

【施設の維持管理の方向性及び整備手法の概要】

方向性	整備手法	内容
維持	長寿命化	計画的に改修等の保全を行い、現在の施設をより長く使用する。
改善	機能改修	経年劣化への対応を目的に改修する。
	耐震改修	地震に対する安全性向上を目的に改修する。
改廃	再整備 (改築)	現状の施設を解体し、現地もしくは別の敷地に新たに施設を整備する。
	廃止	施設を解体・撤去する。

(出典) スポーツ庁「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」(平成 30 年 3 月)

【個別施設の維持管理の方向性検討（一次評価）のフロー】



(出典) スポーツ庁「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」(平成 30 年 3 月)

【耐震性評価と施設の整備手法の評価結果】

施設名称	耐震基準	耐震診断	耐震改修	施設の方向性	耐震性の有無	整備手法
岐阜市民総合体育館	旧耐震	C	実施済	維持	有	長寿命化
西部体育館	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
東部体育館	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
南部スポーツセンター	旧耐震	A	実施済	維持	有	長寿命化
もえぎの里多目的体育館	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
もえぎの里体育館	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
北部体育館	旧耐震	C	実施済	維持	有	長寿命化
北西部体育館	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
岐阜ファミリーパーク体育館	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
岐陽体育館	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
体育ルーム	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
岐阜市スポーツ交流センター	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化
本荘市民プール	旧耐震	不要	不要	維持	有	長寿命化
南部市民プール	旧耐震	不要	不要	維持	有	長寿命化
北部市民プール	新基準	不要	不要	維持	有	長寿命化

※体育ルームは施設保有者である鉄道業者の方針によるものとします。

(3) 一次評価結果のとりまとめ

対象施設の基本情報や、劣化調査結果を整理した各施設の現況調査シートを次頁以降に記載しました。

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	岐阜市民総合体育館		外観 		
	施設種別	体育館				
	屋内外の別	屋内				
建設	竣工年	1970	年	外観 		
	供用開始年	50	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	4,134	m ²	コート 		
	延床面積	5,186	m ²			
	建築面積	5,186	m ²			
	競技エリア面積	1,080	m ²			
	構造	RC 鉄筋コンクリート造				
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	3	階			
	地下階	-	階			
競技	競技種目・面数 (1)	1	面	バスケットボール	位置 	
	競技種目・面数 (2)	2	面	バレーボール		
	競技種目・面数 (3)	6	面	バドミントン		
	競技種目・面数 (4)	1	面	テニス		
	競技種目・面数 (5)	有	面	体操		
	競技種目・面数 (6)	16	面	卓球		
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル		
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール		
	競技種目・面数 (9)	2	面	柔道		
	競技種目・面数 (10)	2	面	剣道		
	競技種目・面数 (11)	1	面	弓道		
	競技種目・面数 (12)	1	面	相撲		
	競技種目・面数 (13)	1	面	狙撃		
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー		
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール		
	競技種目・面数 (16)	2	面	トレーニングルーム		
	観覧	観覧席 (固定)	180			
観覧席 (可動)				席		
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	指定避難所				

施設の現況評価 (一次評価)					
項目	現況評価	現況詳細		判定	
安全性	経過年数	50年	法定耐用年数超過		良
	劣化度	79点	屋根C、2020年1月 外壁改修工事実施		
経済性 ※2	収入	14,247,340円	施設面積あたり 2,748円/m ²		良
	支出	52,547,406円	施設面積あたり 10,133円/m ²		
	稼働率 ※3	33%			
耐震性	耐震基準	旧耐震			有
	耐震診断の実施	C			
	耐震改修の実施	実施済	問題なし		
	その他	-	非構造部材の耐震化予定		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5		長寿命化
二次評価の必要性			有		

※1: PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2: 経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3: 稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4: 施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5: 施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	西部体育館		外観 		
	施設種別	体育館				
	屋内外の別	屋内				
建設	竣工年	1984	年			
	供用開始年	36	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	6,710	m ²			外観 
	延床面積	2,846	m ²			
	建築面積	2,846	m ²			
	競技エリア面積	1,224	m ²			
	構造	RC 鉄筋コンクリート造				
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	3	階			
	地下階	-	階			
競技	競技種目・面数 (1)	2	面	バスケットボール	コート 	
	競技種目・面数 (2)	2	面	バレーボール		
	競技種目・面数 (3)	8	面	バドミントン		
	競技種目・面数 (4)	3	面	テニス		
	競技種目・面数 (5)	有	面	体操		
	競技種目・面数 (6)	有	面	卓球		
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル		
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール		
	競技種目・面数 (9)	-	面	柔道		
	競技種目・面数 (10)	-	面	剣道		
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道		
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲		
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃		
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー		
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール		
	競技種目・面数 (16)	-	面	トレーニングルーム		
	観覧	観覧席 (固定)	168	席		
観覧席 (可動)			席			
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	指定避難所				

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	36年	法定耐用年数未満	良
	劣化度	73点	屋根C、2019年10月非常用発電設備改修	
経済性 ※2	収入	9,198,939円	施設面積あたり 3,233円/m ²	良
	支出	50,667,736円	施設面積あたり 17,804円/m ²	
	稼働率 ※3	47%		
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし	有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性				有

※1：PH＝ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。




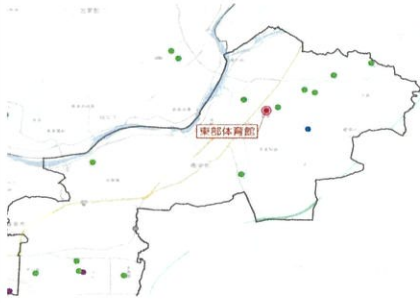
※2：経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3：稼働率は、1日を6コマ（時間単位）として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数（実績）の割合です。

※4：施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。（詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載）

※5：施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。（詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載）

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	東部体育館		外観 		
	施設種別	体育館				
	屋内外の別	屋内				
建設	竣工年	1983	年	外観 		
	供用開始年	37	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	5,423	m ²	コート 		
	延床面積	2,843	m ²			
	建築面積	2,843	m ²			
	競技エリア面積	1,224	m ²			
	構造	RC 鉄筋コンクリート造				
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	2	階			
	地下階	-	階			
競技	競技種目・面数 (1)	2	面	バスケットボール	位置 	
	競技種目・面数 (2)	2	面	バレーボール		
	競技種目・面数 (3)	8	面	バドミントン		
	競技種目・面数 (4)	3	面	テニス		
	競技種目・面数 (5)	有	面	体操		
	競技種目・面数 (6)	16	面	卓球		
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル		
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール		
	競技種目・面数 (9)	有	面	柔道		
	競技種目・面数 (10)	有	面	剣道		
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道		
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲		
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃		
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー		
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール		
	競技種目・面数 (16)	1	面	トレーニングルーム		
	観覧	観覧席 (固定)	212	席		
観覧席 (可動)			席			
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	指定避難所				

施設の現況評価 (一次評価)				
項目		現況評価	現況詳細	判定
安全性	経過年数	37年	法定耐用年数未済	良
	劣化度	88点		
経済性 ※2	収入	6,301,745円	施設面積あたり 2,216円/m ²	良
	支出	33,861,064円	施設面積あたり 11,910円/m ²	
	稼働率 ※3	35%		
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし	有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性			有	

※1: PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2: 経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3: 稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4: 施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5: 施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真	
施設	施設名称	南部スポーツセンター		外観 	
	施設種別	体育館			
	屋内外の別	屋内			
建設	竣工年	1978	年		
	供用開始年	42	年		
	設計者	不明			
	施工会社	不明			
	運営形態	指定管理者			
	その他	-			
規模・構造	敷地面積	6,616	m ²		
	延床面積	2,704	m ²		
	建築面積	2,704	m ²		
	競技エリア面積	1,224	m ²		
	構造	SRC 鉄骨鉄筋コンクリート造			
	PH階 ※1	-	階		
	地上階	2	階		
	地下階	-	階		
その他	テニスコート：クレー		コート 		
競技種目・面数 (1)	2	面			バスケットボール
競技種目・面数 (2)	2	面			バレーボール
競技種目・面数 (3)	8	面			バドミントン
競技種目・面数 (4)	4	面			テニス
競技種目・面数 (5)	有	面			体操
競技種目・面数 (6)	16	面			卓球
競技種目・面数 (7)	-	面			フットサル
競技種目・面数 (8)	-	面			ハンドボール
競技種目・面数 (9)	有	面			柔道
競技種目・面数 (10)	有	面			剣道
競技種目・面数 (11)	-	面			弓道
競技種目・面数 (12)	-	面			相撲
競技種目・面数 (13)	-	面			狙撃
競技種目・面数 (14)	-	面			アーチェリー
競技種目・面数 (15)	-	面			クライミングウォール
競技種目・面数 (16)	-	面			トレーニングルーム
観覧	観覧席 (固定)	204	席	位置 	
	観覧席 (可動)		席		
その他の機能	照明設備	不明			
	防災計画上の位置づけ	指定避難所			

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	42年	法定耐用年数未済	良
	劣化度	64点	屋根D・外壁C	
経済性 ※2	収入	7,276,334円	施設面積あたり 2,692円/m ²	良
	支出	63,761,313円	施設面積あたり 23,580円/m ²	
	稼働率 ※3	30%		
耐震性	耐震基準	旧耐震	問題なし	有
	耐震診断の実施	A		
	耐震改修の実施	実施済		
	その他	-		
施設の方向性 ※4	維持	整備手法 ※5	長寿命化	
二次評価の必要性		有		

※1：PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2：経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3：稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4：施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5：施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	もえぎの里多目的体育館		外観 		
	施設種別	体育館				
	屋内外の別	屋内				
建設	竣工年	2015	年			
	供用開始年	5	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	6,863	m ²			外観 
	延床面積	1,943	m ²			
	建築面積	1,656	m ²			
	競技エリア面積	859	m ²			
	構造	RC 鉄筋コンクリート造				
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	2	階			
	地下階	-	階			
競技	競技種目・面数 (1)	1	面	バスケットボール	コート 	
	競技種目・面数 (2)	2	面	バレーボール		
	競技種目・面数 (3)	4	面	バドミントン		
	競技種目・面数 (4)	-	面	テニス		
	競技種目・面数 (5)	-	面	体操		
	競技種目・面数 (6)	-	面	卓球		
	競技種目・面数 (7)	1	面	フットサル		
	競技種目・面数 (8)	1	面	ハンドボール		
	競技種目・面数 (9)	-	面	柔道		
	競技種目・面数 (10)	-	面	剣道		
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道		
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲		
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃		
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー		
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール		
	競技種目・面数 (16)	1	面	トレーニングルーム		
	観覧	観覧席 (固定)	125	席		
観覧席 (可動)			席			
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	指定緊急避難場所兼指定避難所				

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	5年	法定耐用年数未済	良
	劣化度	95点		
経済性 ※2	収入	8,024,366円	施設面積あたり 4,128円/m ²	良
	支出	58,667,603円	施設面積あたり 30,196円/m ²	
	稼働率 ※3	47%		
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし	有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性			有	

※1: PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。


※2: 経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3: 稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4: 施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5: 施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	もえぎの里体育館		外観 		
	施設種別	体育館				
	屋内外の別	屋内				
建設	竣工年	2000	年	外観 		
	供用開始年	20	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
	規模・構造	敷地面積	6,443			m ²
延床面積		654	m ²			
建築面積		-	m ²			
競技エリア面積		487	m ²			
構造		RC 鉄筋コンクリート造				
PH階 ※1		-	階			
地上階		3	階			
地下階		-	階			
競技	競技種目・面数 (1)	-	面	バスケットボール	位置 	
	競技種目・面数 (2)	-	面	バレーボール		
	競技種目・面数 (3)	2	面	バドミントン		
	競技種目・面数 (4)	-	面	テニス		
	競技種目・面数 (5)	-	面	体操		
	競技種目・面数 (6)	-	面	卓球		
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル		
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール		
	競技種目・面数 (9)	-	面	柔道		
	競技種目・面数 (10)	-	面	剣道		
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道		
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲		
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃		
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー		
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール		
	競技種目・面数 (16)	1	面	トレーニングルーム		
	観覧	観覧席 (固定)				
観覧席 (可動)				席		
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	指定緊急避難場所兼指定避難所				

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	20年	法定耐用年数未満	良
	劣化度	87点		
経済性 ※2	収入	-	施設面積あたり -	良
	支出	-	施設面積あたり -	
	稼働率 ※3	-		
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし	有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性		有		

※1：PH＝ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。





※2：経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3：稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4：施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5：施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真	
施設	施設名称	北部体育館		 <p>外観</p>  <p>外観</p>	
	施設種別	体育館			
	屋内外の別	屋内			
建設	竣工年	1981	年		
	供用開始年	39	年		
	設計者	不明			
	施工会社	不明			
	運営形態	指定管理者			
その他	-				
規模・構造	敷地面積	9,774	m ²		
	延床面積	2,837	m ²		
	建築面積	2,758	m ²		
	競技エリア面積	1,058	m ²		
	構造	RC 鉄筋コンクリート造			
	PH階 ※1	-	階		
	地上階	3	階		
	地下階	-	階		
その他	-				
競技	競技種目・面数 (1)	2	面	バスケットボール	 <p>コート</p>  <p>位置</p>
	競技種目・面数 (2)	2	面	バレーボール	
	競技種目・面数 (3)	6	面	バドミントン	
	競技種目・面数 (4)	2	面	テニス	
	競技種目・面数 (5)	-	面	体操	
	競技種目・面数 (6)	有	面	卓球	
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル	
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール	
	競技種目・面数 (9)	-	面	柔道	
	競技種目・面数 (10)	有	面	剣道	
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道	
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲	
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃	
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー	
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール	
	競技種目・面数 (16)	-	面	トレーニングルーム	
観覧	観覧席 (固定)	186	席		
	観覧席 (可動)		席		
その他の機能	照明設備	不明			
	防災計画上の位置づけ	指定避難所			

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	39年	法定耐用年数未滿	良
	劣化度	72点	屋根・外壁C	
経済性 ※2	収入	8,893,551円	施設面積あたり 3,134円/m ²	良
	支出	39,664,875円	施設面積あたり 13,980円/m ²	
	稼働率 ※3	45%		
耐震性	耐震基準	旧耐震		有
	耐震診断の実施	C		
	耐震改修の実施	実施済	問題なし	
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性		有		

※1: PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2: 経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3: 稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4: 施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5: 施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	北西部体育館		外観 		
	施設種別	体育館				
	屋内外の別	屋内				
建設	竣工年	1990	年	外観 		
	供用開始年	30	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	5,755	m ²	コート 		
	延床面積	2,717	m ²			
	建築面積	2,717	m ²			
	競技エリア面積	1,224	m ²			
	構造	SRC 鉄骨鉄筋コンクリート造				
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	2	階			
	地下階	-	階			
競技	競技種目・面数 (1)	2	面	バスケットボール	位置 	
	競技種目・面数 (2)	2	面	バレーボール		
	競技種目・面数 (3)	8	面	バドミントン		
	競技種目・面数 (4)	2	面	テニス		
	競技種目・面数 (5)	有	面	体操		
	競技種目・面数 (6)	-	面	卓球		
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル		
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール		
	競技種目・面数 (9)	-	面	柔道		
	競技種目・面数 (10)	-	面	剣道		
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道		
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲		
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃		
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー		
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール		
	競技種目・面数 (16)	-	面	トレーニングルーム		
	観覧	観覧席 (固定)	240			
観覧席 (可動)				席		
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	指定緊急避難場所兼指定避難所				

施設の現況評価 (一次評価)					
項目	現況評価	現況詳細		判定	
安全性	経過年数	30年	法定耐用年数未満		良
	劣化度	86点	屋根C、2019年12月エントランス屋上防水工事		
経済性 ※2	収入	4,696,995円	施設面積あたり 1,730円/m ²		良
	支出	40,855,348円	施設面積あたり 15,039円/m ²		
	稼働率 ※3	28%			
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし		有
	耐震診断の実施	不要			
	耐震改修の実施	不要			
	その他	-	非構造部材の耐震化予定		
施設の方向性 ※4	維持	整備手法 ※5		長寿命化	
二次評価の必要性		有			

※1：PH＝ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。





※2：経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3：稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4：施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5：施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真	
施設	施設名称	岐阜ファミリーパーク体育館		外観 	
	施設種別	体育館			
	屋内外の別	屋内			
建設	竣工年	1987	年	外観 	
	供用開始年	33	年		
	設計者	不明			
	施工会社	不明			
	運営形態	指定管理者			
その他	-				
規模・構造	敷地面積	52,028	m ²	コート 	
	延床面積	2,926	m ²		
	建築面積	2,926	m ²		
	競技エリア面積	1,296	m ²		
	構造	SRC 鉄骨鉄筋コンクリート造			
	PH階 ※1	-	階		
	地上階	2	階		
	地下階	-	階		
その他	-				
競技	競技種目・面数 (1)	2	面	バスケットボール	位置 
	競技種目・面数 (2)	2	面	バレーボール	
	競技種目・面数 (3)	8	面	バドミントン	
	競技種目・面数 (4)	2	面	テニス	
	競技種目・面数 (5)	-	面	体操	
	競技種目・面数 (6)	-	面	卓球	
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル	
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール	
	競技種目・面数 (9)	-	面	柔道	
	競技種目・面数 (10)	有	面	剣道	
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道	
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲	
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃	
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー	
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール	
	競技種目・面数 (16)	1	面	トレーニングルーム	
観覧	観覧席 (固定)		席		
	観覧席 (可動)		席		
その他の機能	照明設備	不明			
	防災計画上の位置づけ	指定避難所			

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	33年	法定耐用年数未満	良
	劣化度	80点	外壁C	
経済性 ※2	収入	4,416,154円	施設面積あたり 1,511円/m ²	良
	支出	46,967,211円	施設面積あたり 16,053円/m ²	
	稼働率 ※3	16%		
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし	有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性			有	

※1: PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。




※2: 経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3: 稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4: 施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5: 施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	岐陽体育館		外観 		
	施設種別	体育館				
	屋内外の別	屋内				
建設	竣工年	1984	年	外観 		
	供用開始年	36	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	18,350	m ²	コート 		
	延床面積	3,406	m ²			
	建築面積	2,658	m ²			
	競技エリア面積	882	m ²			
	構造	RC 鉄筋コンクリート造				
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	2	階			
	地下階	-	階			
競技	競技種目・面数 (1)	1	面	バスケットボール	位置 	
	競技種目・面数 (2)	2	面	バレーボール		
	競技種目・面数 (3)	-	面	バドミントン		
	競技種目・面数 (4)	-	面	テニス		
	競技種目・面数 (5)	-	面	体操		
	競技種目・面数 (6)	4	面	卓球		
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル		
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール		
	競技種目・面数 (9)	-	面	柔道		
	競技種目・面数 (10)	-	面	剣道		
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道		
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲		
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃		
	競技種目・面数 (14)	1	面	アーチェリー		
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール		
	競技種目・面数 (16)	-	面	トレーニングルーム		
	観覧	観覧席 (固定)				
観覧席 (可動)				席		
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	指定避難所				

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	36年	法定耐用年数未満	良
	劣化度	87点		
経済性 ※2	収入	1,680,912円	施設面積あたり 493円/m ²	良
	支出	12,964,224円	施設面積あたり 3,805円/m ²	
	稼働率 ※3	80%		
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし	有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性				有

※1：PH＝ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2：経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3：稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4：施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5：施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	体育ルーム				
	施設種別	体育施設				
	屋内外の別	屋内				
建設	竣工年	2001	年			
	供用開始年	19	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	786	m ²			
	延床面積	786	m ²			
	建築面積	786	m ²			
	競技エリア面積	-	m ²			
	構造	RC	鉄筋コンクリート造			
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	2	階			
	地下階	-	階			
その他	JR高架下					
競技	競技種目・面数 (1)	-	面	バスケットボール		
	競技種目・面数 (2)	-	面	バレーボール		
	競技種目・面数 (3)	-	面	バドミントン		
	競技種目・面数 (4)	-	面	テニス		
	競技種目・面数 (5)	-	面	体操		
	競技種目・面数 (6)	-	面	卓球		
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル		
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール		
	競技種目・面数 (9)	有	面	柔道		
	競技種目・面数 (10)	有	面	剣道		
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道		
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲		
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃		
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー		
	競技種目・面数 (15)	1	面	クライミングウォール		
	競技種目・面数 (16)	1	面	トレーニングルーム		
観覧	観覧席 (固定)			席		
	観覧席 (可動)			席		
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	-				

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	19年	法定耐用年数未済	良
	劣化度	-	-	
経済性 ※2	収入	6,136,062円	施設面積あたり 7,812円/m ²	良
	支出	34,566,033円	施設面積あたり 43,982円/m ²	
	稼働率 ※3	71%		
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし	有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-	非構造部材の耐震化予定	
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性			有	

※1: PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。


※2: 経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3: 稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4: 施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5: 施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真	
施設	施設名称	岐阜市スポーツ交流センター		外観 	
	施設種別	体育施設			
	屋内外の別	屋内			
建設	竣工年	2015	年		
	供用開始年	5	年		
	設計者	不明			
	施工会社	不明			
	運営形態				
	その他	-			
規模・構造	敷地面積	2,475	m ²		
	延床面積	657	m ²		
	建築面積	657	m ²		
	競技エリア面積	-	m ²		
	構造	S	鉄骨造		
	PH階 ※1	-	階		
	地上階	1	階		
	地下階	-	階		
競技	競技種目・面数 (1)	-	面	バスケットボール	位置 
	競技種目・面数 (2)	-	面	バレーボール	
	競技種目・面数 (3)	-	面	バドミントン	
	競技種目・面数 (4)	-	面	テニス	
	競技種目・面数 (5)	-	面	体操	
	競技種目・面数 (6)	-	面	卓球	
	競技種目・面数 (7)	-	面	フットサル	
	競技種目・面数 (8)	-	面	ハンドボール	
	競技種目・面数 (9)	-	面	柔道	
	競技種目・面数 (10)	-	面	剣道	
	競技種目・面数 (11)	-	面	弓道	
	競技種目・面数 (12)	-	面	相撲	
	競技種目・面数 (13)	-	面	狙撃	
	競技種目・面数 (14)	-	面	アーチェリー	
	競技種目・面数 (15)	-	面	クライミングウォール	
	競技種目・面数 (16)	有	面	トレーニングルーム	
	観覧	観覧席 (固定)		席	
観覧席 (可動)			席		
その他の機能	照明設備	不明			
	防災計画上の位置づけ	指定避難所			

施設の現況評価 (一次評価)

項目	現況評価	現況詳細	判定
安全性	経過年数	5年	法定耐用年数未満
	劣化度	95点	
経済性 ※2	収入	7,135,794円	施設面積あたり 10,868円/m ²
	支出	24,143,705円	施設面積あたり 36,743円/m ²
	稼働率 ※3		
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし
	耐震診断の実施	不要	
	耐震改修の実施	不要	
	その他	-	
施設の方向性 ※4	維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性		有	

※1：PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2：経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3：稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4：施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5：施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	本荘市民プール		外観 		
	施設種別	プール				
	屋内外の別	屋外				
建設	竣工年	1980	年	外観 		
	供用開始年	40	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	18,545	m ²	プール 		
	延床面積	421	m ²			
	建築面積	41	m ²			
	競技エリア面積	421	m ²			
	構造	RC 鉄筋コンクリート造				
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	1	階			
	地下階	-	階			
その他	一般用、幼児用		位置 			
競技	競技種目・面数 (1)	-			面	バスケットボール
	競技種目・面数 (2)	-			面	バレーボール
	競技種目・面数 (3)	-			面	バドミントン
	競技種目・面数 (4)	-			面	テニス
	競技種目・面数 (5)	-			面	体操
	競技種目・面数 (6)	-			面	卓球
	競技種目・面数 (7)	-			面	フットサル
	競技種目・面数 (8)	-			面	ハンドボール
	競技種目・面数 (9)	-			面	柔道
	競技種目・面数 (10)	-			面	剣道
	競技種目・面数 (11)	-			面	弓道
	競技種目・面数 (12)	-			面	相撲
	競技種目・面数 (13)	-			面	狙撃
	競技種目・面数 (14)	-			面	アーチェリー
	競技種目・面数 (15)	-			面	クライミングウォール
	競技種目・面数 (16)	-			面	トレーニングルーム
観覧	観覧席 (固定)		席			
	観覧席 (可動)		席			
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	-				

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	40年	法定耐用年数未済	良
	劣化度	71点	屋根・外壁 C	
経済性 ※2	収入	433,497円	施設面積あたり 1,021円/m ²	良
	支出	4,369,347円	施設面積あたり 10,380円/m ²	
	稼働率 ※3			
耐震性	耐震基準	旧耐震		有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性			有	

※1: PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2: 経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3: 稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4: 施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改修のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5: 施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	南部市民プール		外観 		
	施設種別	プール				
	屋内外の別	屋外				
建設	竣工年	1980	年	外観 		
	供用開始年	40	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
	敷地面積	10,494	m ²			プール 
延床面積	914	m ²				
建築面積	319	m ²				
競技エリア面積	914	m ²				
構造	RC 鉄筋コンクリート造					
PH階 ※1	-	階				
地上階	1	階				
地下階	-	階				
その他	一般用、幼児用		位置 			
競技	競技種目・面数 (1)	-			面	バスケットボール
	競技種目・面数 (2)	-			面	バレーボール
	競技種目・面数 (3)	-			面	バドミントン
	競技種目・面数 (4)	-			面	テニス
	競技種目・面数 (5)	-			面	体操
	競技種目・面数 (6)	-			面	卓球
	競技種目・面数 (7)	-			面	フットサル
	競技種目・面数 (8)	-			面	ハンドボール
	競技種目・面数 (9)	-			面	柔道
	競技種目・面数 (10)	-			面	剣道
	競技種目・面数 (11)	-			面	弓道
	競技種目・面数 (12)	-			面	相撲
	競技種目・面数 (13)	-			面	狙撃
	競技種目・面数 (14)	-			面	アーチェリー
	競技種目・面数 (15)	-			面	クライミングウォール
	競技種目・面数 (16)	-			面	トレーニングルーム
観覧	観覧席 (固定)			席		
	観覧席 (可動)			席		
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	-				

施設の現況評価 (一次評価)

項目	現況評価	現況詳細	判定
安全性	経過年数	40年	法定耐用年数未済
	劣化度	63点	屋根D・外壁C
経済性 ※2	収入	1,285,400円	施設面積あたり 1,411円/m ²
	支出	9,066,098円	施設面積あたり 9,923円/m ²
	稼働率 ※3		
耐震性	耐震基準	旧耐震	有
	耐震診断の実施	不要	
	耐震改修の実施	不要	
	その他	-	
施設の方向性 ※4	維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性		有	

※1：PH＝ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2：経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3：稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4：施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5：施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

スポーツ施設の現況調査シート

基本情報				現況写真		
施設	施設名称	北部市民プール		外観 		
	施設種別	プール				
	屋内外の別	屋外				
建設	竣工年	1986	年	外観 		
	供用開始年	34	年			
	設計者	不明				
	施工会社	不明				
	運営形態	指定管理者				
	その他	-				
規模・構造	敷地面積	9,774	m ²	プール 		
	延床面積	673	m ²			
	建築面積	326	m ²			
	競技エリア面積	673	m ²			
	構造	RC 鉄筋コンクリート造				
	PH階 ※1	-	階			
	地上階	1	階			
	地下階	-	階			
その他	一般用、幼児用		位置 			
競技	競技種目・面数 (1)	-			面	バスケットボール
	競技種目・面数 (2)	-			面	バレーボール
	競技種目・面数 (3)	-			面	バドミントン
	競技種目・面数 (4)	-			面	テニス
	競技種目・面数 (5)	-			面	体操
	競技種目・面数 (6)	-			面	卓球
	競技種目・面数 (7)	-			面	フットサル
	競技種目・面数 (8)	-			面	ハンドボール
	競技種目・面数 (9)	-			面	柔道
	競技種目・面数 (10)	-			面	剣道
	競技種目・面数 (11)	-			面	弓道
	競技種目・面数 (12)	-			面	相撲
	競技種目・面数 (13)	-			面	狙撃
	競技種目・面数 (14)	-			面	アーチェリー
	競技種目・面数 (15)	-			面	クライミングウォール
	競技種目・面数 (16)	-			面	トレーニングルーム
観覧	観覧席 (固定)		席			
	観覧席 (可動)		席			
その他の機能	照明設備	不明				
	防災計画上の位置づけ	-				

施設の現況評価 (一次評価)				
項目	現況評価	現況詳細	判定	
安全性	経過年数	34年	法定耐用年数未済	良
	劣化度	78点	外壁C	
経済性 ※2	収入	853,833円	施設面積あたり 1,263円/m ²	良
	支出	9,097,970円	施設面積あたり 13,522円/m ²	
	稼働率 ※3			
耐震性	耐震基準	新基準	問題なし	有
	耐震診断の実施	不要		
	耐震改修の実施	不要		
	その他	-		
施設の方向性 ※4		維持	整備手法 ※5	長寿命化
二次評価の必要性			有	

※1: PH=ペントハウスのことで、建物の屋上に設けられた小屋や塔屋のことを指します。

※2: 経済性は、平成29年度から平成31年度の3年間の平均値を記載します。

※3: 稼働率は、1日を6コマ(時間単位)として、年間開館日数×コマ数のうち施設を使用したコマ数(実績)の割合です。

※4: 施設の維持管理の方向性のことで、維持・改善・改廃のいずれかに分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

※5: 施設の今後の整備手法とのことで、長寿命化や機能改修、再整備等に分類されます。(詳細は個別施設計画書3-2(2)に記載)

第4章 スポーツ施設の環境評価

4-1 スポーツ施設に関する政策方針の検討

(1) 対象施設の規模・配置計画等の方針

地域性を考慮して市内各地に分散してバランス良く配置された12の体育館は、市民スポーツ教室の会場となるなど、他の都市に比べて、より地域に密着したスポーツ振興を図れるよう「地域体育館」としての役割をもたせています。上位計画においても、市民誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを楽しめる環境を整備することとしています。

原則として、現在の配置を維持しながら、引き続き利用者である市民のニーズに応じていく努力をしていきます。

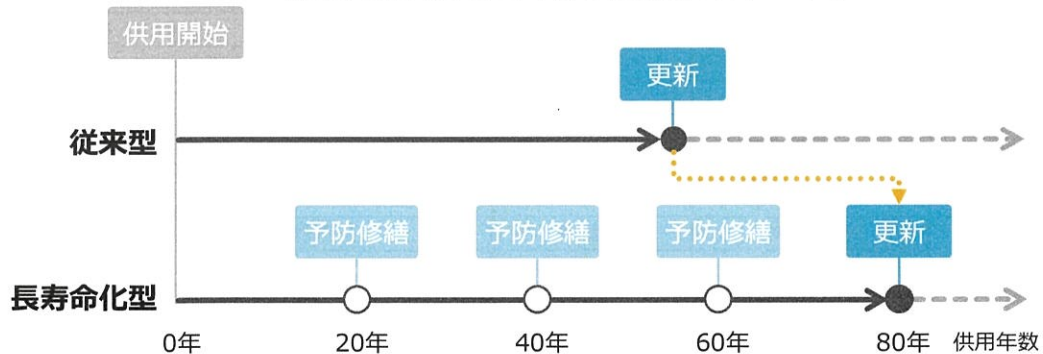
【市民のスポーツの様子】



(2) 維持管理の基本的な方針

対象施設に対する今後の維持管理は、基本的に長寿命化を図っていきます。長寿命化とは、建物の部材の劣化が進行する前に、おおよそ20年の定期的なサイクルで予防修繕を実施し、従来型管理よりも建物の寿命を延命化することを言います。建物の寿命について、具体的には80年を目指して長寿命化型管理を実施していきます。ただし、劣化調査でC・D評価であった施設は、劣化部位を改善する必要があります。市民が安全に、安心して利用できるよう、まずは部位修繕を実施し、その後長寿命化を図ります。

【従来の維持管理と今後の維持管理イメージ】



今後予想される財源不足及び担い手不足、激甚化する災害に対し、戦略的な維持管理を実施していくため、法定耐用年数を超えて長期間、安全に使用していくための長寿命化を目指します。

4-2 スポーツ施設の環境に関する情報の収集・整理

対象施設の今後のあり方を検討するために、スポーツ施設の運営状況を整理するとともに、同規模の自治体とのベンチマークを行いました。

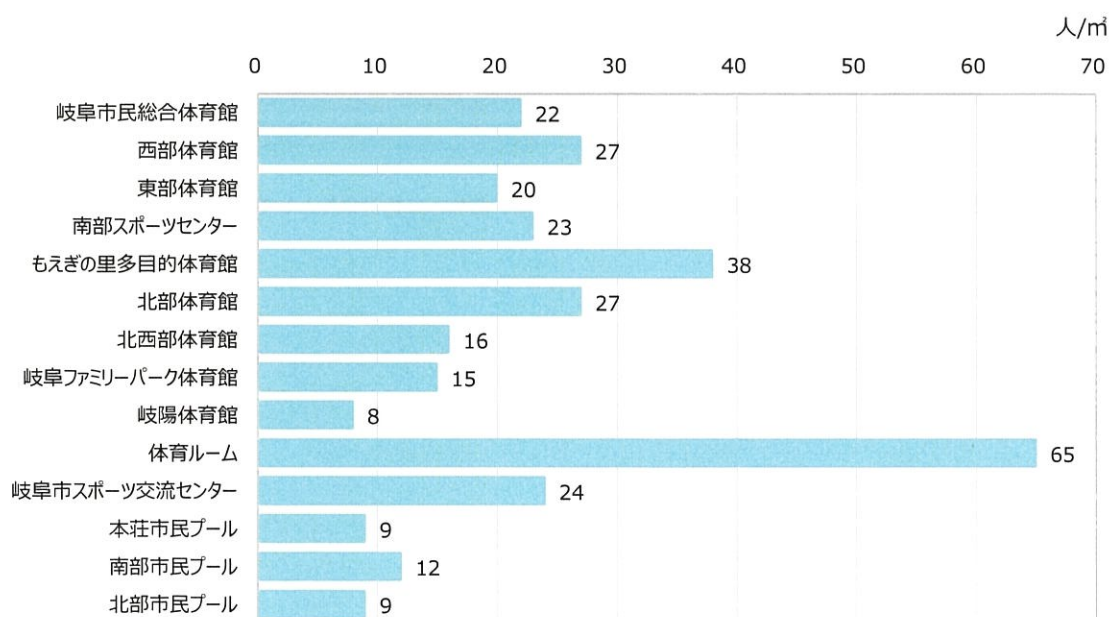
(1) 利用状況

施設毎の年間利用人数を整理し、施設面積あたりの平均利用人数を比較します。施設面積あたりの利用人数は、体育ルームが最も多く 65 人/m²です。次いで、もえぎの里多目的体育館が 38 人/m²となっています。体育ルームの面積当たりの利用人数が多いのは、広いスペースが必要な競技がないことや、最近、クライミングがブームになっていることなどが起因していると思われます。

【対象施設の利用人数】

施設名称	(人)				(人/m ²)
	H29	H30	H31	平均	施設面積あたりの平均利用人数
岐阜市民総合体育館	122,926	113,415	104,531	113,624	22
西部体育館	71,293	84,212	78,834	78,113	27
東部体育館	57,857	56,027	56,942	56,942	20
南部スポーツセンター	58,943	67,506	63,583	63,344	23
もえぎの里多目的体育館	64,612	78,652	77,787	73,683	38
北部体育館	78,639	72,506	74,829	75,324	27
北西部体育館	46,325	43,410	38,597	42,777	16
岐阜ファミリーパーク体育館	54,528	37,495	38,143	43,388	15
岐陽体育館	31,053	24,695	29,069	28,272	8
体育ルーム	53,144	52,111	48,044	51,099	65
岐阜市スポーツ交流センター	18,547	16,607	12,428	15,860	24
本荘市民プール	4,267	3,878	3,486	3,877	9
南部市民プール	11,702	10,856	10,445	11,001	12
北部市民プール	6,649	6,577	5,738	6,321	9
平均	48,606	47,711	45,890	47,402	23

【対象施設の延床面積あたりの利用人数平均】



(2) 稼働率

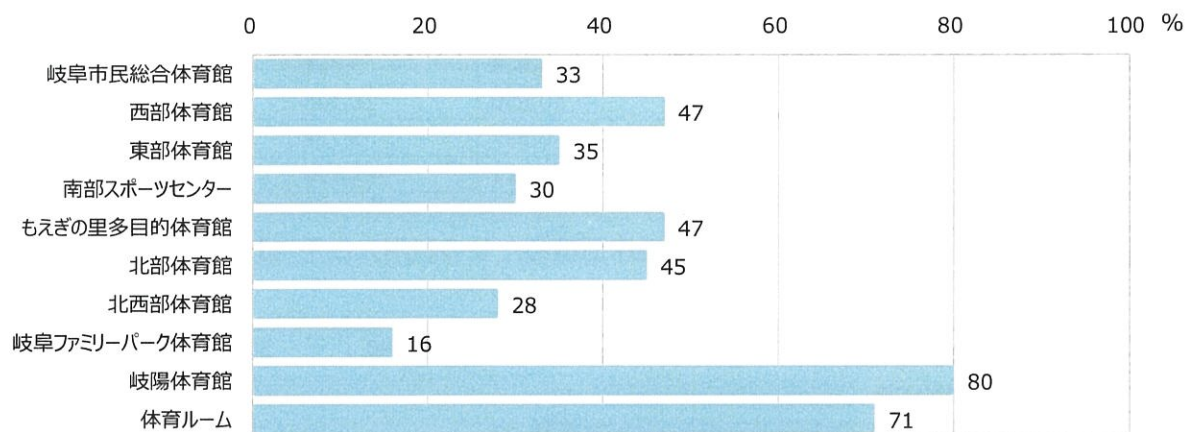
施設毎の稼働率を整理します。3年間の稼働率平均を比較すると、岐陽体育館が最も高く80%、次いで体育ルームが71%、そして西部体育館ともえぎの里多目的体育館が47%となっています。岐陽体育館は、年間の利用人数が少ない割に、稼働率が高いことから、少人数で頻繁に使われている施設と言えます。

【対象施設の稼働率】

(%)

施設名称	H29	H30	H31	平均
岐阜市民総合体育館	34	33	33	33
西部体育館	48	47	45	47
東部体育館	32	37	37	35
南部スポーツセンター	31	30	29	30
もえぎの里多目的体育館	32	51	58	47
北部体育館	49	43	42	45
北西部体育館	34	25	25	28
岐阜ファミリーパーク体育館	22	11	14	16
岐陽体育館	95	65	81	80
体育ルーム	74	71	68	71
平均	45	41	43	43

【施設毎の3年間の稼働率平均】



※岐阜市スポーツ交流センター及び各プールは、稼働率の情報が無いため、分析対象外としています。

(3) 防災上の位置づけ

対象施設には、岐阜市の指定緊急避難場所と指定避難所に指定されている施設があります。これらの施設は、災害時の避難場所及び避難所としての役割も保有しているため、有事に備えて施設を健全な状態に維持することが重要です。

【災害時の避難場所及び避難所の指定について】

避難所区分	役割	指定された施設
指定緊急避難場所 兼指定避難所	災害が発生した際に、身を守るために一時的に避難する場所として、災害の種類ごとに、被害想定区域の外にある施設を「指定緊急避難場所」に指定しています。	もえぎの里体育館
		もえぎの里多目的体育館
		北西部体育館
指定避難所	災害発生後、自宅の損壊や、水害、がけ崩れ等の危険のため自宅で生活ができない被災者が、一定期間生活するための施設として、小中学校の体育館やその他の公共施設等を「指定避難所」に指定しています。	岐阜市民総合体育館
		南部スポーツセンター
		北部体育館
		東部体育館
		西部体育館
		岐阜ファミリーパーク体育館
		岐陽体育館
岐阜市スポーツ交流センター		

(4) 岐阜市と全国における同等の中核市との比較

岐阜市の公共施設のうち、スポーツ施設の保有状況について整理し、本市と人口規模が同等の中核市の状況と比較します。中核市とは、人口 20 万以上の要件を満たす政令指定都市以外の規模や能力などが比較的大きな都市の事務権限を強化し、できる限り住民の身近なところで行政を行うことができるようにした都市制度のことです。

なお、比較対象とする中核市は、総合管理計画における中核市と本市との比較で使用された地方自治体を採用し、46 市と本市を比較します。

【比較を行う類似団体】

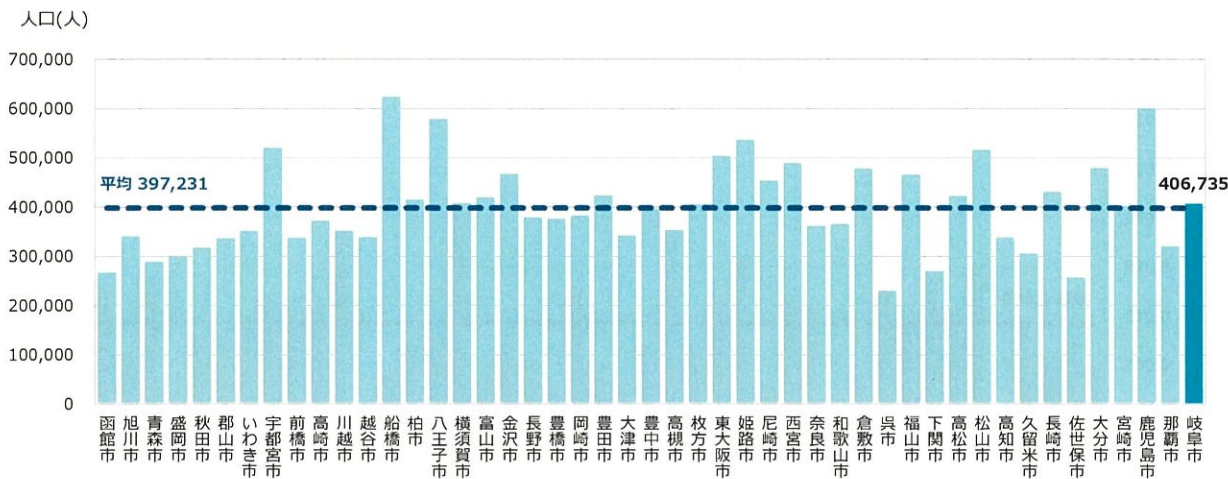
No.	中核市	人口 (人)	面積 (㎡)	人口密度 (人/㎡)	財政力指数	1人あたりの 面積(㎡/人)	体育施設の 延面積(㎡)	1人あたりの 延床面積(㎡/人)
1	函館市	265,979	677.86	392.40	0.47	392.38	21,601	0.081
2	旭川市	339,605	747.66	454.20	0.53	454.22	27,379	0.081
3	青森市	287,648	824.61	348.80	0.56	348.83	28,466	0.099
4	盛岡市	297,631	886.47	335.70	0.75	335.75	32,046	0.108
5	秋田市	315,814	906.09	348.50	0.67	348.55	28,016	0.089
6	郡山市	335,444	757.20	443.00	0.82	443.01	37,089	0.111
7	いわき市	350,237	1,232.02	284.30	0.79	284.28	31,164	0.089
8	宇都宮市	518,594	416.85	1,244.10	0.99	1,244.08	38,414	0.074
9	前橋市	336,154	311.59	1,078.80	0.82	1,078.83	21,141	0.063
10	高崎市	370,884	459.16	807.70	0.85	807.74	61,319	0.165
11	川崎市	350,745	109.13	3,214.00	0.97	3,214.01	13,718	0.039
12	越谷市	337,498	60.24	5,602.60	0.93	5,602.56	21,850	0.065
13	船橋市	622,890	85.62	7,275.10	0.96	7,275.05	30,388	0.049
14	柏市	413,954	114.74	3,607.80	0.95	3,607.76	44,738	0.108
15	八王子市	577,513	186.38	3,098.60	0.95	3,098.58	36,388	0.063
16	横須賀市	406,586	100.83	4,032.40	0.82	4,032.39	38,649	0.095
17	富山市	418,686	1,241.77	337.20	0.83	337.17	72,856	0.174
18	金沢市	465,699	468.64	993.70	0.87	993.72	38,678	0.083
19	長野市	377,598	834.81	452.30	0.74	452.32	81,410	0.216
20	豊橋市	374,765	261.86	1,431.20	0.99	1,431.17	28,815	0.077
21	岡崎市	381,051	387.20	984.10	1.02	984.12	28,664	0.075
22	豊田市	422,542	918.32	460.10	1.49	460.13	65,651	0.155
23	大津市	340,973	464.51	734.00	0.82	734.05	20,029	0.059
24	豊中市	395,479	36.39	10,867.80	0.92	10,867.79	22,837	0.058
25	高槻市	351,829	105.29	3,341.50	0.82	3,341.52	16,811	0.048
26	枚方市	404,152	65.12	6,206.30	0.81	6,206.27	20,796	0.051
27	東大阪市	502,784	61.78	8,138.30	0.76	8,138.30	13,804	0.027
28	姫路市	535,664	534.47	1,002.20	0.89	1,002.23	32,299	0.060
29	尼崎市	452,563	50.72	8,922.80	0.83	8,922.77	23,529	0.052
30	西宮市	487,850	99.96	4,880.50	0.94	4,880.45	22,697	0.047
31	奈良市	360,310	276.94	1,301.00	0.77	1,301.04	22,708	0.063
32	和歌山市	364,154	208.84	1,743.70	0.82	1,743.70	12,857	0.035
33	倉敷市	477,118	355.63	1,341.60	0.87	1,341.61	30,877	0.065
34	呉市	228,552	352.80	647.80	0.61	647.82	34,570	0.151
35	福山市	464,811	518.14	897.10	0.82	897.08	35,965	0.077
36	下関市	268,517	715.89	375.10	0.55	375.08	31,475	0.117
37	高松市	420,748	375.41	1,120.80	0.83	1,120.77	40,955	0.097
38	松山市	514,865	429.37	1,199.10	0.76	1,199.12	22,564	0.044
39	高知市	337,190	308.99	1,091.30	0.64	1,091.27	15,634	0.046
40	久留米市	304,552	229.96	1,324.40	0.67	1,324.37	26,787	0.088
41	長崎市	429,508	405.86	1,058.30	0.59	1,058.27	27,684	0.064
42	佐世保市	255,439	426.06	599.50	0.52	599.54	33,220	0.130
43	大分市	478,146	502.39	951.70	0.91	951.74	15,517	0.032
44	宮崎市	401,138	643.67	623.20	0.68	623.20	42,433	0.106
45	鹿児島市	599,814	547.55	1,095.50	0.73	1,095.45	75,527	0.126
46	那覇市	319,435	39.57	8,072.70	0.83	8,072.66	13,608	0.043
47	岐阜市	406,735	203.60	1,997.70	0.87	1,997.72	28,836	0.071

※平成 27 年 国勢調査人口等基本集計、全市町村の主要財政指標（平成 30 年度決算）（どちらも総務省）より作成

岐阜市の人口及び体育施設の1人あたりの延床面積を示します。

岐阜市の人口は40万6,735人で、類似団体の平均である39万7,231人を上回っています。岐阜市の人口は、比較対象の中核市の平均的な値といえます。

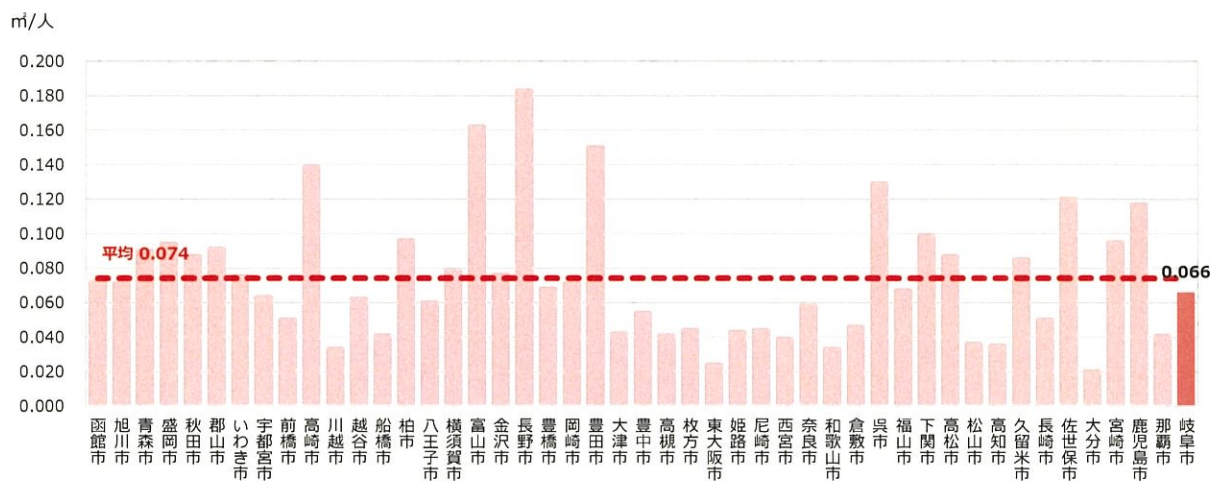
【類似団体との比較（人口）】



次に、岐阜市が保有する体育館とプールについても、類似団体との比較を行います。

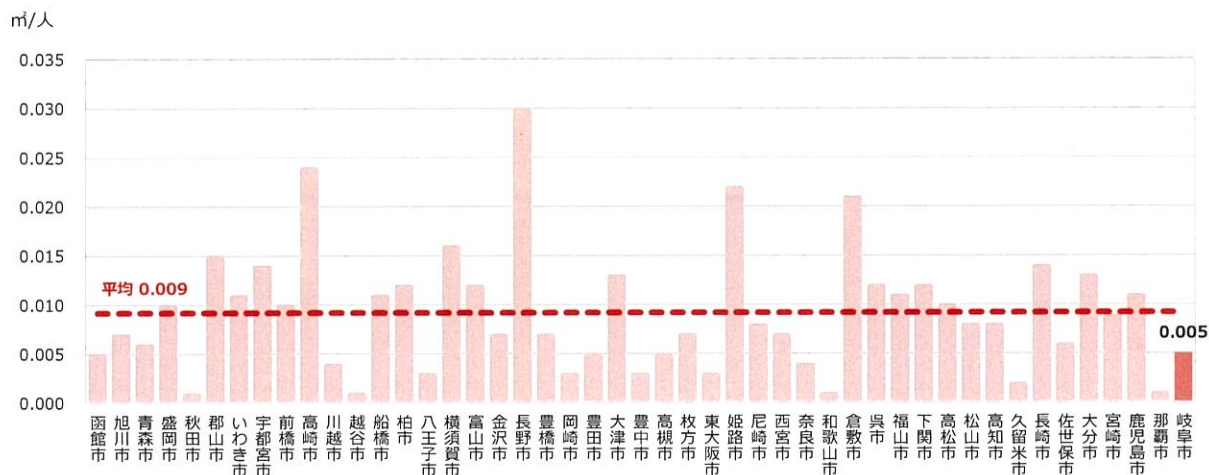
1人あたりの体育館の面積は、類似団体の平均が0.074 m²/人に対し、岐阜市は0.066 m²/人で、体育館の面積についても平均をわずかに下回っています。

【類似団体との比較（1人あたりの体育館延床面積）】



1人あたりのプールの面積は、類似団体の平均が0.009 m²/人であるのに対し、岐阜市は0.005 m²/人で、平均の約半分程度です。ただし、プールについては、極端に少ない自治体や多い自治体が複数あり、保有量のばらつきの大きい施設と言えます。

【類似団体との比較（1人あたりのプール水面面積）】



※平成 27 年 公共施設状況調経年比較表（平成 30 年度決算）（総務省）より作成

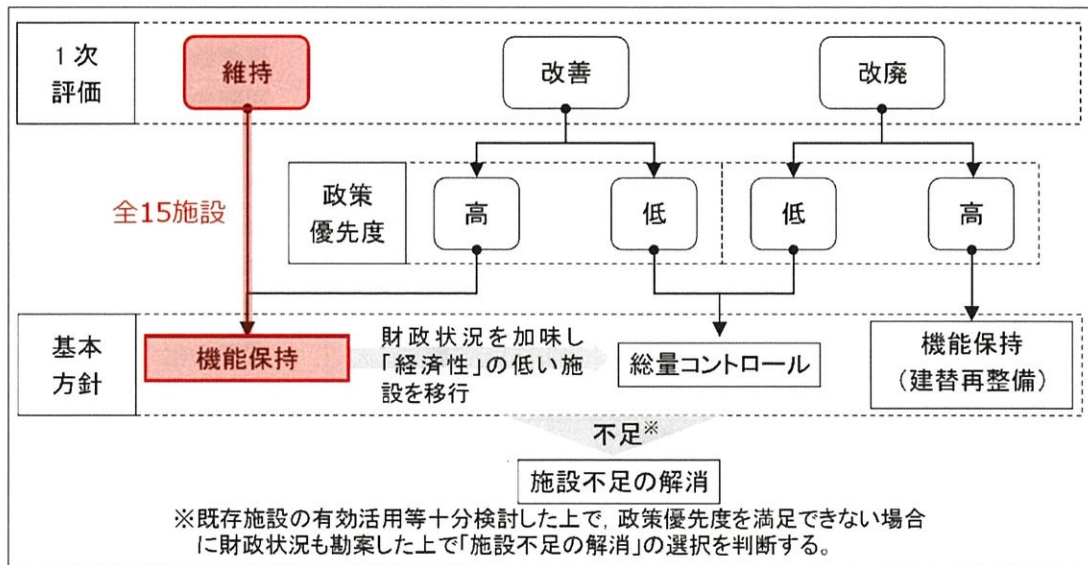
類似団体との比較結果より、岐阜市のスポーツ施設の延床面積は、類似団体の平均よりも少ないことがわかりました。しかし、一次評価結果や施設の年間利用人数及び稼働率等の分析結果を踏まえて、施設総量の変更はせず、既存施設を維持・長寿命化していくことを基本的な考えとします。

4-3 スポーツ施設の基本方針に関する検討

(1) 基本方針の検討

4-2 スポーツ施設に関する情報の収集・整理にて整理した情報をもとに、スポーツ施設の環境を評価します。下図に示すフローに従い、一次評価で設定した維持管理の方向性が全施設「維持」評価であったことを踏まえて、政策優先度の評価は実施せず、全施設の維持管理の基本方針を「機能保持」とします。

【スポーツ施設の基本方針の検討（二次評価）のフロー】



(出典) スポーツ庁「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」(平成30年3月)

【基本方針の概要】

基本方針	内容
(スポーツ施設としての) 機能保持	現在の施設の機能を保持する。老朽化やそれに伴う維持管理費の増加に対応できるよう、計画的な対応方針を施設ごとに検討する。老朽化が激しいものについては建替再整備の時期や方法について検討する。
総量コントロール	将来的に維持管理し続けることができない施設について、廃止や転用の時期、方法について検討する。
施設不足の解消	スポーツ施設が不足している状態である場合、利用可能なスポーツ施設を増やすことを目指す。

(出典) スポーツ庁「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」(平成30年3月)

(2) 二次評価結果のとりまとめ

対象施設の基本方針は、全施設について「機能保持」とします。

【対象施設の基本方針】

施設名称	一次評価			二次評価
	施設の方向性	耐震性の有無	整備手法	基本方針
岐阜市民総合体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
西部体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
東部体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
南部スポーツセンター	維持	有	長寿命化	機能保持
もえぎの里多目的体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
もえぎの里体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
北部体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
北西部体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
岐阜ファミリーパーク体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
岐陽体育館	維持	有	長寿命化	機能保持
体育ルーム	維持	有	長寿命化	機能保持
岐阜市スポーツ交流センター	維持	有	長寿命化	機能保持
本荘市民プール	維持	有	長寿命化	機能保持
南部市民プール	維持	有	長寿命化	機能保持
北部市民プール	維持	有	長寿命化	機能保持

(3) 地域の現状を踏まえた対象施設の現状と今後の方針整理

対象施設の地域に着目し、令和2年度から12年度までの人口増減予測を示した地域ごとの地図を用いて、地域の現状、その地域に位置するスポーツ施設の特徴、今後の維持管理方針等を整理します。

①北西部

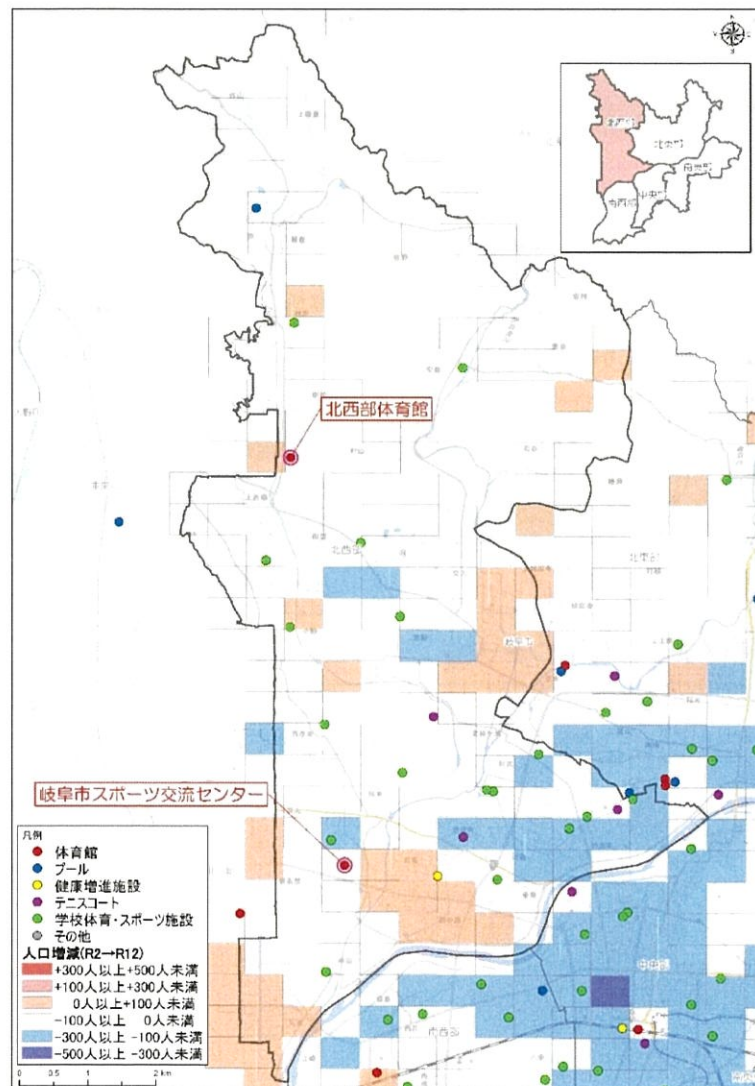
a. 地域の現状

- 対象施設のうち、北西部体育館と岐阜市スポーツ交流センターが位置しています。
- 隣接する本巣市の本巣市民スポーツプラザには、糸貫川スタジアムという体育館、テニスコート、プールがあり、北方町には、北方町アルテックアリーナという体育館があります。
- 地域の10年後の人口は、一部増加傾向または減少傾向の場所がありますが、大きく変動しない見込みです。

【北西部の対象施設】

施設名称	建設年	供用年	構造	階数	延床面積(m ²)	3年平均				競技
						歳入額(万円/m ²)	歳出額(万円/m ²)	利用者数(人/m ²)	稼働率(%)	
北西部体育館	1990	30	SRC	2	2,717	1,730	15,039	16	28	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニス、体操
岐阜市スポーツ交流センター	2015	5	S	1	657	10,868	36,743	24	-	トレーニングルーム

【北西部の対象施設位置と令和2年度から令和12年度の人口増減予測】



(出典：国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口 (H29 国政局推計) を元に作成)

b. 本地域に位置する対象施設の現状と課題

北西部体育館と岐阜市スポーツ交流センターの現状と課題を整理します。

北西部体育館

- 対象施設のうち、本地域にある唯一の体育館であり、バスケットボール等の球技や柔道、剣道も行うことができます。
- また、緊急指定避難場所兼指定避難所に指定されているため、地域住民にとって重要な施設です。
- 稼働率は、3年間の平均で28%となっており、他施設と比較すると低めですが、地域唯一の体育館であること、緊急指定避難場所兼指定避難所に指定されていることを踏まえて、施設を健全に保っていく必要があります。
- 供用開始から30年経過しており、2021年度に非構造部材の耐震化工事を予定しています。
- 劣化調査結果で屋根がC評価であったため、部位修繕も必要です。

岐阜市スポーツ交流センター

- 対象施設のうち、2015年に建設した最も新しい施設です。
- 交流サロンを有しており、市民の交流の場でもあります。
- 周辺の人口は一部増加が見込まれているため利用者が増える可能性があり、また建物が新しく、良好な状態であるため、長寿命化を実施します。

c. 本地域に位置するスポーツ施設の今後の維持管理方針

- 北西部体育館は、非構造部材の耐震補強と、劣化調査結果よりC評価であった屋根部材の部位修繕を実施し、健全な状態にしてから長寿命化を実施します。
- 岐阜市スポーツセンターは、新しい施設で健全な状態であるため、長寿命化を実施します。

【北西部の施設の今後の維持管理方針】

施設	今後の維持管理方針
北西部体育館	部位修繕を実施し、長寿命化
岐阜市スポーツ交流センター	長寿命化

②北東部

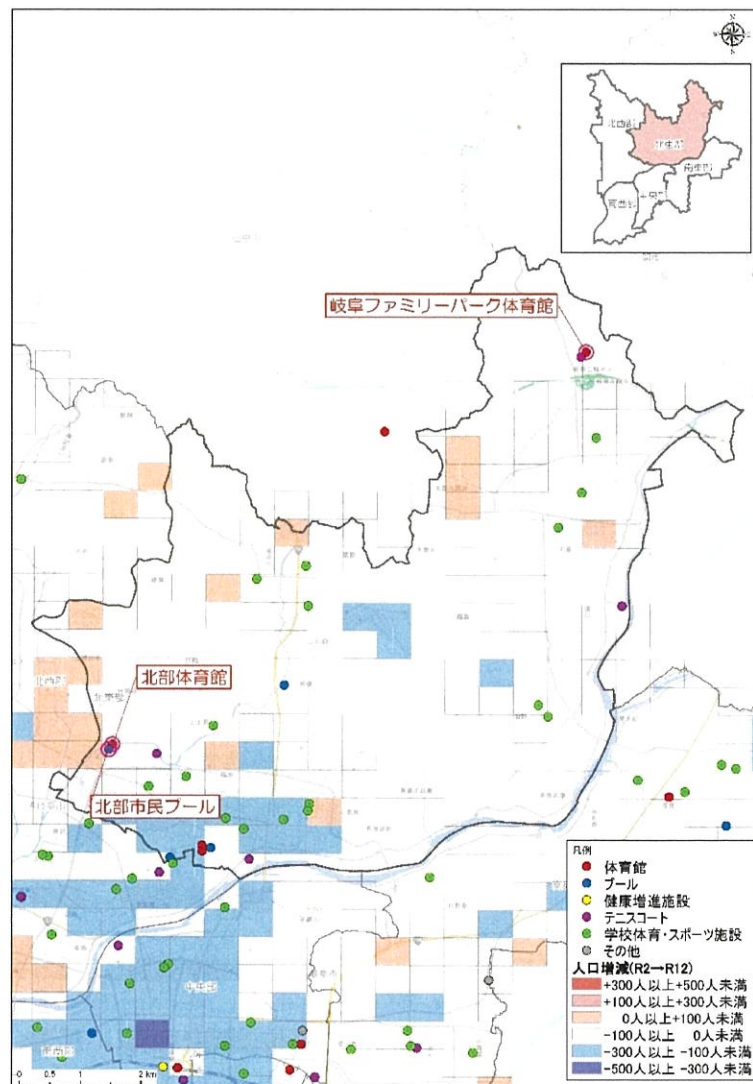
a. 地域の現状

- 地域の北東端部に岐阜ファミリーパーク体育館があり、北西部寄りに北部体育館と北部市民プールが位置しています。
- 地域内には対象施設の他に、総合体育施設である岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム・で愛ドームや、体育館、柔道場、剣道場を有する山県市総合運動場があります。
- 市中央部付近では、一部人口が減少傾向の場所がありますが、大きく変動しない見込みです。

【北東部の対象施設】

施設名称	建設年	供用年	構造	階数	延床面積(m ²)	3年平均				競技
						歳入額(万円/m ²)	歳出額(万円/m ²)	利用者数(人/m ²)	稼働率(%)	
北部体育館	1981	39	RC	3	2,837	3,134	13,980	27	45	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニス、卓球、剣道
岐阜ファミリーパーク体育館	1987	33	SRC	2	2,926	1,511	16,053	15	16	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニス、剣道、トレーニングルーム
北部市民プール	1986	34	RC	1	673	1,263	13,522	9	-	プール

【北東部の対象施設位置と令和2年度から令和12年度の人口増減予測】



(出典：国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口 (H29 国政局推計) を元に作成)

b. 本地域に位置する対象施設の現状と課題

北部体育館と岐阜ファミリーパーク体育館、北部市民プールの現状と課題を整理します。

北部体育館

- 北西部寄りに位置しているため、地域内にスポーツ施設が少ない北西部の地域の人々も利用しやすい施設です。
- 面積あたりの利用者数が 27 人で、対象施設の中では比較的高い数値となっており、また、稼働率は 3 年間の平均が 45% で、施設周辺の人口が増加傾向と見込まれることから今後の需要も高いと考えられます。
- 指定避難所となっており、劣化調査の結果、屋根と外壁が C 評価であるため、部位修繕を実施し、健全な状態にすることが必要です。

岐阜ファミリーパーク体育館

- 稼働率が 3 年間の平均 16% であり、対象施設のうち最も低い状況ですが、施設周辺の人口はわずかながら増加傾向と見込まれることや、将来的に公園やスマートインターの整備等により施設利用の需要が高まる可能性があります。
- 本施設は指定避難所となっているため、重要性もあることから維持していくことが望まれます。
- 建物は供用から 33 年経過しており、外壁が C 評価となっているため、まずは部位修繕を実施する必要があります。

北部市民プール

- 北部体育館の近くに位置しており、同様に人口は増加傾向と見込まれるため、需要が高まる可能性があります。
- 劣化調査の結果、外壁が C 評価のため、まずは部位修繕する必要があります。

c. 本地域に位置するスポーツ施設の今後の維持管理方針

- 北部体育館は、劣化調査結果より C 評価であった屋根及び外壁の部位修繕を実施し、健全な状態にしてから長寿命化を実施します。
- 岐阜ファミリーパーク体育館は、外壁が C 評価であったため、部位修繕を行い、その後長寿命化を実施します。
- 北部市民プールは、外壁が C 評価であったため、他の 2 施設と同様に部位修繕後、長寿命化を実施します。

【北東部の施設の今後の維持管理方針】

施設	今後の維持管理方針
北部体育館	部位修繕を実施し、長寿命化
岐阜ファミリーパーク体育館	部位修繕を実施し、長寿命化
北部市民プール	部位修繕を実施し、長寿命化

③中央部

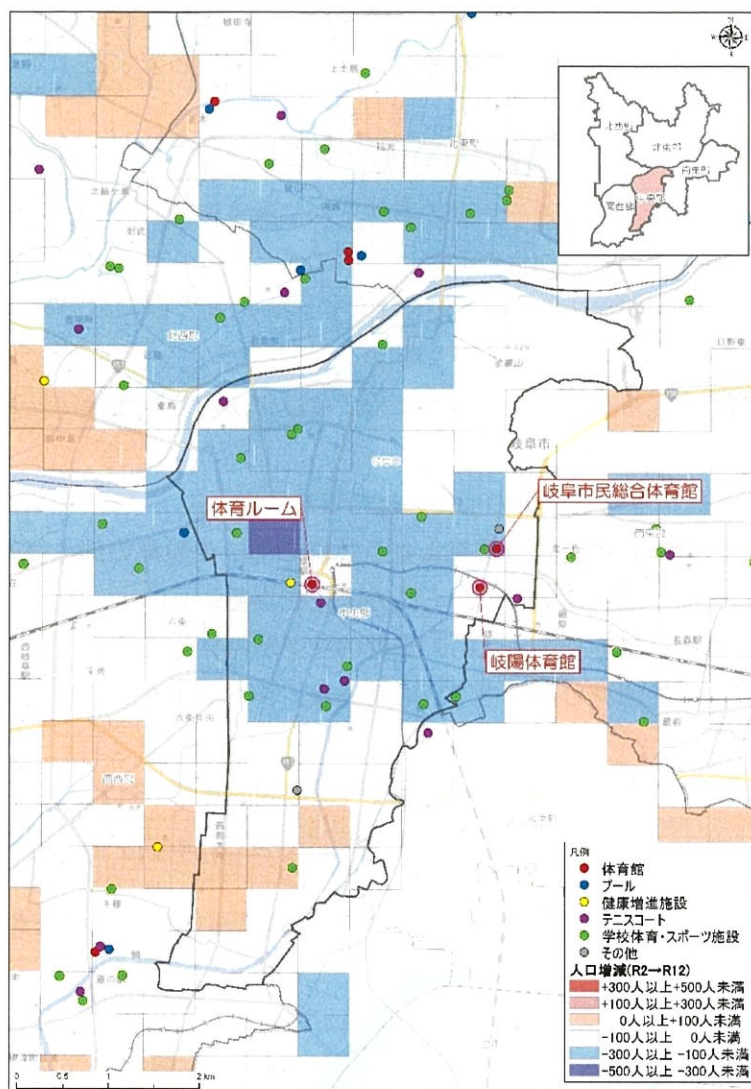
a. 地域の現状

- 中央部には、岐阜市民総合体育館と岐陽体育館、体育ルームの3つの対象施設があります。
- 地域の中心部が人口減少傾向と見込まれています。

【中央部の対象施設】

施設名称	建設年	供用年	構造	階数	延床面積(m ²)	3年平均				競技
						歳入額(万円/m ²)	歳出額(万円/m ²)	利用者数(人/m ²)	稼働率(%)	
岐阜市民総合体育館	1970	50	RC	3	5,186	2,748	10,133	22	33	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニス、体操、卓球、柔道、剣道、弓道、相撲、狙撃、トレーニングルーム
岐陽体育館	1984	36	RC	2	3,406	493	3,805	8	80	バスケットボール、バレーボール、卓球、アーチェリー
体育ルーム	2001	19	RC	2	786	7,812	43,982	65	71	柔道、剣道、クライミングウォール、トレーニングルーム

【中央部の対象施設位置と令和2年度から令和12年度の人口増減予測】



(出典：国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口 (H29 国政局推計) を元に作成)

b. 本地域に位置する対象施設の現状と課題

岐阜市民総合体育館と岐陽体育館、体育ルームの現状と課題を整理します。

岐阜市民総合体育館

- 対象施設で最も延床面積が大きく、規模の大きな施設で、様々な競技を行うことができます。
- 本施設には対象施設で唯一、弓道場や相撲場、狙撃場を備えており、独自性が高いと言えます。
- 競技の独自性や指定避難所としても地域にとって重要な施設であるため、健全に維持管理していくことが望まれます。
- 非構造部材の耐震化工事を予定しています。
- 屋根がC評価であるため、部位修繕を実施する必要があります。

岐陽体育館

- 周辺の人口は徐々に減少していくことが見込まれますが、3年間の平均稼働率が80%で、対象施設のうち最も稼働率が高い施設であるため、今後も需要が高い施設と考えられます。
- 岐陽体育館には、他の対象施設に無いアーチェリー場があるため、独自性が高いと言えます。
- 競技の独自性や指定避難所として、岐阜市民総合体育館と同様に地域にとって重要施設であるため、健全に維持管理していくことが望まれます。
- 本施設は、現状健全性に問題がないため、長寿命化を実施します。

体育ルーム

- 中央部を南北に分けるように走る鉄道の高架下に位置する施設で、対象施設のうち唯一クライミングウォールを有しており、独自性の高い施設です。
- 3年間の平均稼働率は71%で、対象施設の中で2番目に高い稼働率であり、需要が高い施設と考えられます。
- 非構造部材の耐震化工事を予定しているため、耐震化工事を実施後に長寿命化を実施します。

c. 本地域に位置するスポーツ施設の今後の維持管理方針

- 岐阜市民総合体育館は、劣化調査結果よりC評価であった屋根の部位修繕と、非構造部材の耐震化工事を実施し、健全な状態にしてから長寿命化を実施します。
- 岐陽体育館は、健全な状態であるため、定期的な予防修繕を実施して長寿命化を推進します。
- 体育ルームは、非構造部材の耐震化工事を実施後、長寿命化を実施します。

【中央部の施設の今後の維持管理方針】

施設	今後の維持管理方針
岐阜市民総合体育館	部位修繕を実施し、長寿命化
岐陽体育館	長寿命化
体育ルーム	長寿命化

④南西部

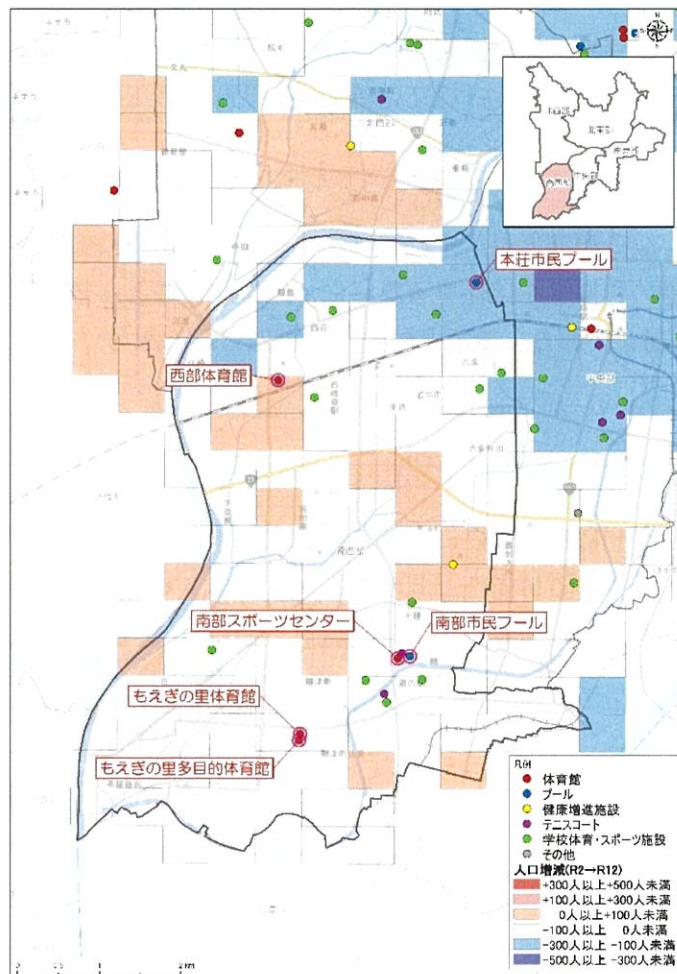
a. 地域の現状

- 対象施設が6施設あり、最も多くの対象施設が位置している地域です。
- 隣接する北西部及び中央部には対象施設が少ないため、その地域の人々が利用することもできます。
- 地域内には、スポーツクラブミニッツという法人のスポーツクラブがあり、フットサル、テニス、バスケットボール、バドミントンのコートをレンタルすることができます。
- 人口は、中央部寄りの一部地域で減少傾向ですが、その他の地域は現状維持または増加傾向と見込まれています。

【南西部の対象施設】

施設名称	建設年	供用年	構造	階数	延床面積(m ²)	3年平均				競技
						歳入額(万円/m ²)	歳出額(万円/m ²)	利用者数(人/m ²)	稼働率(%)	
西部体育館	1984	36	RC	3	2,846	3,233	17,804	27	47	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニス、体操、卓球
南部スポーツセンター	1978	42	SRC	2	2,704	2,692	23,580	23	30	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニス、体操、卓球、柔道、剣道
もえぎの里多目的体育館	2015	5	RC	2	1,943	4,128	30,196	38	47	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、フットサル、ハンドボール、トレーニングルーム
もえぎの里体育館	2000	20	RC	3	654					バドミントン、トレーニングルーム
本荘市民プール	1980	40	RC	1	421	1,021	10,380	9	-	プール
南部市民プール	1980	40	RC	1	914	1,411	9,923	12	-	プール

【南西部の対象施設位置と令和2年度から令和12年度の人口増減予測】



(出典：国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口 (H29 国政局推計) を元に作成)

b. 本地域に位置する対象施設の現状と課題

南西部に位置する 6 施設の現状と課題を整理します。

西部体育館

- 3年間の稼働率は平均 47% で、対象施設の中で 3 番目に高い施設であり、周辺の人口は増加傾向と見込まれており、今後も需要が高い施設と考えられます。
- 指定避難所であるため、施設を健全に維持することが望まれます。
- 劣化調査では、屋根が C 評価であったことから、部位修繕が必要です。

南部スポーツセンター

- テニスコートについて、対象施設で唯一のクレートコートがあり、独自性が高い施設と言えます。
- 3年間の稼働率は平均 30% で対象施設の中では比較的低い値ですが、周辺の人口は維持または増加傾向と見込まれており、需要が増加する可能性があります。
- 指定避難所であるため、施設を健全に維持することが望まれます。
- 劣化調査の結果、屋根が D 評価、外壁が C 評価のため、部位修繕が必要です。

もえぎの里多目的体育館・もえぎの里体育館

- 多目的体育館は 2015 年、体育館は 2000 年に建設した比較的新しい施設であり、3年間の稼働率は平均 47% で、西部体育館と並び対象施設のうち 3 番目に高い施設です。
- 駐車場が広く、空調が設置されている体育館であるため、今後も稼働率が高い傾向にあると考えられます。
- 岐阜市の指定緊急避難場所兼指定避難所となっており、市民にとって重要な施設です。
- 配管修繕や空調改修工事が予定されているため、それらの工事実施後、長寿命化を実施します。

本荘市民プール

- 施設周辺は人口が減少傾向と見込まれていますが、隣接する北西部や中央部に市のプールが無いため、プール利用の利便性を確保するために、維持することが望ましい施設です。
- 建設後 40 年が経過しており、屋根と外壁が C 評価であるため、まずは部位修繕を行う必要があります。

南部市民プール

- 南部スポーツセンターに近い位置にあり、周辺の人口は維持、または増加傾向と見込まれているため、今後需要が増加する可能性があります。
- 本荘市民プールと同様に、建設後 40 年が経過しており、屋根と D 評価、外壁が C 評価のため、部位修繕が必要です。

c. 本地域に位置するスポーツ施設の今後の維持管理方針

- 西部体育館は、劣化調査結果より屋根がC評価であったため、部位修繕を実施して健全な状態にしてから長寿命化を実施します。
- 南部スポーツセンターは、屋根がD評価・外壁がC評価であったため、部位修繕を実施し、その後長寿命化を実施します。
- もえぎの里多目的体育館は、配管修繕工事が予定されているため、その後長寿命化を実施します。
- 本荘市民プールは、屋根と外壁がC評価であったため、部位修繕を行い健全な状態にした後、長寿命化を実施します。
- 南部市民プールは、屋根がD評価・外壁がC評価であったため、部位修繕を実施し、長寿命化を実施します。

【南西部の施設の今後の維持管理方針】

施設	今後の維持管理方針
西部体育館	部位修繕を実施し、長寿命化
南部スポーツセンター	部位修繕を実施し、長寿命化
もえぎの里多目的体育館	長寿命化
もえぎの里体育館	長寿命化
本荘市民プール	部位修繕を実施し、長寿命化
南部市民プール	部位修繕を実施し、長寿命化

⑤南東部

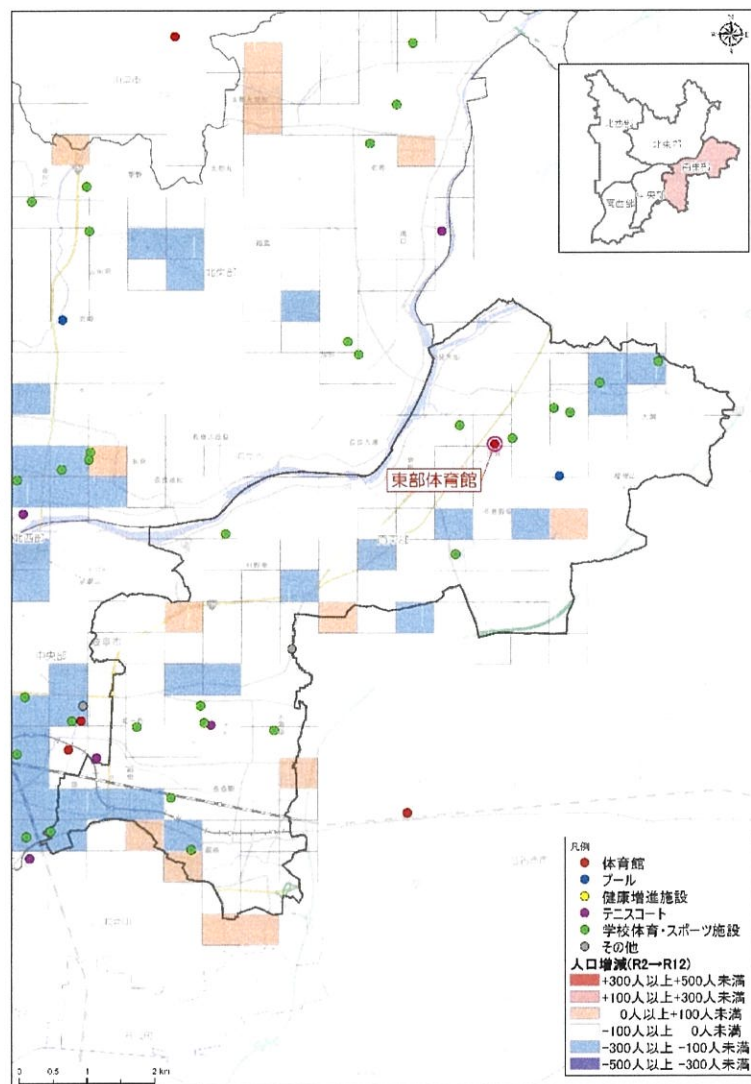
a. 地域の現状

- 対象施設のうち、東部体育館のみが本地域に位置しています。
- 対象施設の他、リフレ芥見というプールがあります。
- 人口はほぼ維持傾向ですが、一部地域で減少やわずかに増加が見込まれています。

【南東部の対象施設】

施設名称	建設年	供用年	構造	階数	延床面積(m ²)	3年平均				競技
						歳入額(万円/m ²)	歳出額(万円/m ²)	利用者数(人/m ²)	稼働率(%)	
東部体育館	1983	37	RC	2	2,843	2,216	11,910	20	35	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニス、体操、卓球、柔道、剣道、トレーニングルーム

【南東部の対象施設位置と令和2年度から令和12年度の人口増減予測】



(出典：国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口 (H29 国政局推計) を元に作成)

b. 本地域に位置する対象施設の現状と課題

東部体育館の現状と課題を整理します。

東部体育館

- 3年間の稼働率は平均35%で、対象施設のうち高い数値ではありませんが、施設周辺の人口はほぼ維持していくことが見込まれているため、今後も一定の需要があると考えられます。
- 南東部にある唯一のスポーツ施設であり、指定避難所となっていることから、地域住民にとって重要な施設と言えます。
- バasketゴールの部位修繕を予定していますが、その後は長寿命化を実施します。

c. 本地域に位置するスポーツ施設の今後の維持管理方針

- 東部体育館は、Basketゴールの取換工事を実施し、その後は定期的に予防修繕を行う長寿命化を実施します。

【南東部の施設の今後の維持管理方針】

施設	今後の維持管理方針
東部体育館	部位修繕を実施し、長寿命化

4-4 基本方針等を踏まえた施設整備の水準の検討

(1) 対象施設の整備水準

対象施設は、すべての施設が新耐震基準、あるいは耐震補強済で建物自体の耐震性に問題はありません。

劣化調査によりC・D評価となった施設の劣化箇所の修繕は2026年までの第1期で実施することとします。特に体育館は、狙撃やアーチェリー等の希少性の高い競技が行われる施設があり、また、防災拠点としての役割を担っていることから、まずは、必要な部位修繕を行い、施設を健全な状態にして維持していくこととします。

【今後の整備水準】

整備種類	整備水準
部位修繕	劣化調査結果より、現状C・D評価の部材がある施設に対し、第1期でC・D評価の部材の修繕を実施します。劣化した部材を修繕し、すべての対象施設を健全にします。
予防修繕	すべての施設に対し、予防的な修繕を実施していきます。長寿命化型管理として20年サイクルで予防修繕を実施することを基本としますが、建設後20年を超えている施設が多いため、古い施設から順に予防修繕を実施します。
更新	長寿命化型管理を実施することで、施設寿命80年を目指します。80年を超えた施設は建替えを実施します。

(2) 日常的な維持管理

岐阜市スポーツ交流センター以外の対象施設は、指定管理者によって日常的な維持管理が行われています。施設内の清掃や定期的な設備点検を実施し、市民が安全に、安心してスポーツを行なえるよう維持管理していきます。

第5章 個別施設計画の検討

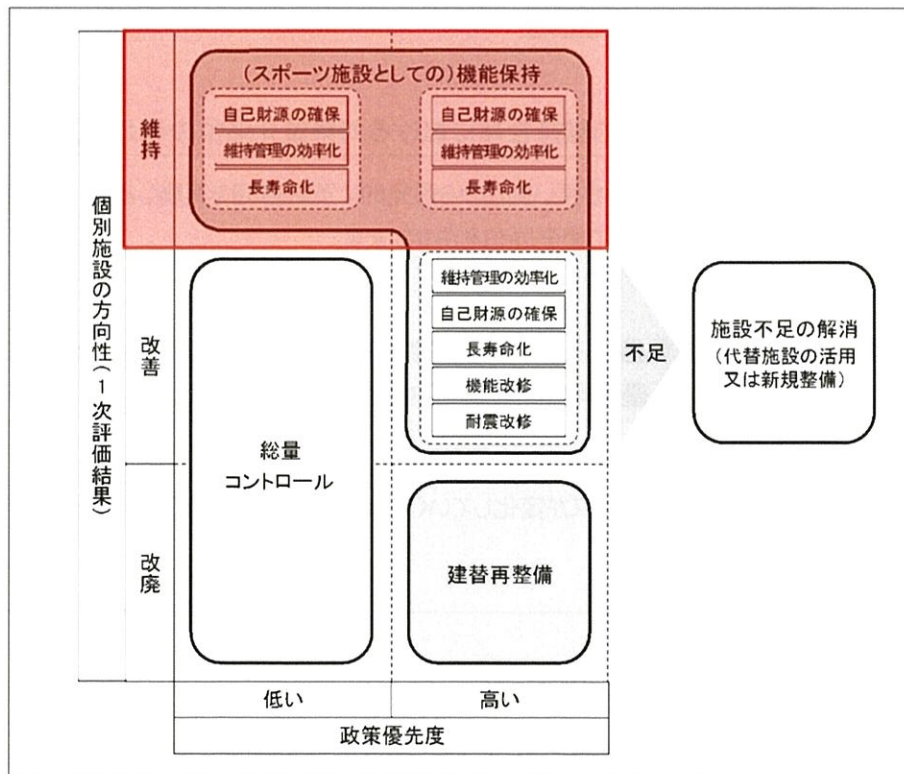
5-1 施設毎の適用手法の検討

対象施設は、施設の維持管理の方向性が「維持」、整備手法は「長寿命化」、基本方針は「機能保持」に分類されます。スポーツ施設の機能保持のため、基本的に劣化部位がある施設は部位修繕を実施し、その後は予防修繕を実施しながら長寿命化を図っていきます。

【対象施設の方向性と整備手法】

施設名称	建築年	供用年	評価	施設の方向性	整備手法	基本方針
岐阜市民総合体育館	1970	50	79	維持	長寿命化	機能保持
西部体育館	1984	36	73	維持	長寿命化	機能保持
東部体育館	1983	37	88	維持	長寿命化	機能保持
南部スポーツセンター	1978	42	64	維持	長寿命化	機能保持
もえぎの里多目的体育館	2015	5	95	維持	長寿命化	機能保持
もえぎの里体育館	2000	20	87	維持	長寿命化	機能保持
北部体育館	1981	39	72	維持	長寿命化	機能保持
北西部体育館	1990	30	86	維持	長寿命化	機能保持
岐阜ファミリーパーク体育館	1987	33	80	維持	長寿命化	機能保持
岐陽体育館	1984	36	87	維持	長寿命化	機能保持
体育ルーム	2001	19	-	維持	長寿命化	機能保持
岐阜市スポーツ交流センター	2015	5	95	維持	長寿命化	機能保持
本荘市民プール	1980	40	71	維持	長寿命化	機能保持
南部市民プール	1980	40	63	維持	長寿命化	機能保持
北部市民プール	1986	34	78	維持	長寿命化	機能保持

【「スポーツ施設としての機能保持」の適用手法】



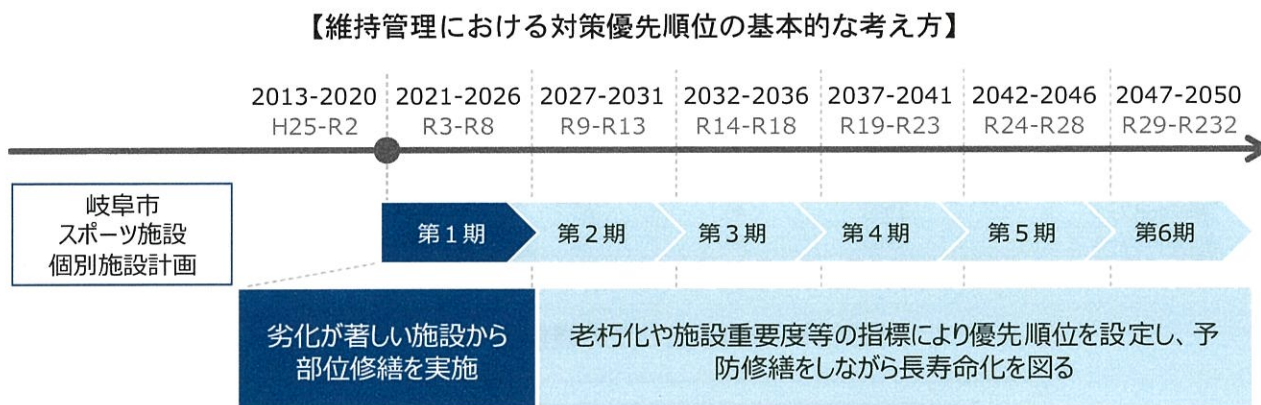
5-2 今後の対策内容と実施時期（ロードマップ）

（1）維持管理における対策の優先順位の考え方

本計画の対象期間である令和3年度から6年間（第1期）は、利用者の安全を守るため、劣化度調査結果より総合劣化度の低い施設から順に部位修繕を実施し、施設を健全な状態にします。なお、令和3年度の修繕予定は既に計画を立案済みのため予定通り実施することとし、本計画では、その後の5年間における短期計画を立案します。

第2期（令和9年度から）は、建築後の経過年数が長い施設から順に予防修繕を実施することとし、80年を目途とした長寿命化に向けて、中長期計画を立案します。

しかし、今後予算の制約やスポーツ施設に対する市民ニーズの変化等により、予防修繕の優先順位について見直す必要が生じる可能性があります。その際には、対象施設を2つの指標によって整理し、対策優先順位を設定します。



【第2期以降の維持管理における対策優先順位の考え方】

第2期以降は、建築後の経過年数が長い施設から優先的に予防修繕を実施します。これを基本とし、将来的には必要に応じて以下の指標も考慮して優先順位を決定します。

・ 指標1

防災的な観点から、地域の緊急指定避難場所兼指定避難所または指定避難所となっている建物は非常に重要な施設といえます。したがって、優先的に対策を実施することが望まれます。

・ 指標2

今後、スポーツ施設に対する市民ニーズが変化していく可能性があります。市民の声を聞き、時代に合った対応を実施していきます。

（2）今後の維持管理ロードマップ

これまでの検討条件にて、計画期間の第1期における部位修繕内容と実施時期を整理した短期修繕計画と、第2期から第6期までの中長期的な修繕実施時期をまとめた表を次頁より示します。

【中長期修繕計画】

	施設名	経 建 過 築 年 後 数 の	構 造	法 定 耐 用 年 数	面 積 (㎡)	劣化状況評価			第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
						屋 根 ・ 屋 上	外 壁	内 部 仕 上	2021年度～ 2026年度 R3～R8	2027年度～ 2031年度 R9～R13	2032年度～ 2036年度 R14～R18	2037年度～ 2041年度 R19～R23	2042年度～ 2046年度 R24～R28	2047年度～ 2050年度 R29～R32
1	岐阜市民総合体育館	50	RC	47	5,186	C	A	D	耐震補強 部位修繕	予防修繕				更新
2	西部体育館	36	RC	47	2,846	C	B	C	部位修繕		予防修繕			
3	東部体育館	37	RC	47	2,843	B	B	B	部位修繕		予防修繕			
4	南部スポーツセンター	42	SRC	47	2,704	D	C	C	部位修繕	予防修繕				
5	もえぎの里多目的体育館	5	RC	47	1,943	A	B	B						予防修繕
6	もえぎの里体育館	20	RC	47	1,757	B	B	B	部位修繕				予防修繕	
7	北部体育館	39	RC	47	2,837	C	C	B	部位修繕		予防修繕			
8	北西部体育館	30	SRC	47	2,717	C	B	B	耐震補強 部位修繕				予防修繕	
9	岐阜ファミリーパーク体育館	33	SRC	47	2,926	B	C	B	部位修繕			予防修繕		
10	岐陽体育館	36	RC	47	2,658	B	B	B				予防修繕		
11	体育ルーム	40	RC	47	319	D	C	C	耐震補強				予防修繕	
12	岐阜市スポーツ交流センター	34	RC	47	326	B	C	C						予防修繕
13	本荘市民プール	19	RC	47	786	-	-	-	部位修繕	予防修繕				
14	南部市民プール	5	S	34	657	A	B	B	部位修繕	予防修繕				
15	北部市民プール	40	RC	47	41	C	C	C	部位修繕			予防修繕		

※表示期間：令和3年度～令和32年度（30年間）

【短期修繕計画】

期間：第1期（令和3年度～令和8年度）

	施設名	対策費用 (千円)	対策内容	
1	岐阜市民総合体育館	90,000	耐震補強	非構造部材耐震補強
		221,400	部位修繕	競技場観覧席取替, シャワーボイラ修繕, 受変電設備改修, バスケットゴール取替, 屋根・内部仕上修繕
2	西部体育館	107,200	部位修繕	玄関棟、電気室雨漏り修繕, 外壁塗装及びクラック補修, バスケットゴール取替, 屋根・内部仕上修繕
3	東部体育館	6,000	部位修繕	バスケットゴール取替
4	南部スポーツセンター	148,200	部位修繕	シャワー室改修, 競技場・管理棟雨漏り修繕, 通路陥没修繕, 屋根・外壁・内部仕上修繕
6	もえぎの里体育館	31,200	部位修繕	配管修繕, 空調設置改修
7	北部体育館	108,100	部位修繕	バスケットゴール取替, 屋根雨漏り修繕, 外壁塗装, 駐車場整備（ライン引き）, 競技場観覧席取替え修繕, 外壁・内部仕上修繕
8	北西部体育館	45,000	耐震補強	非構造部材耐震補強
		52,000	部位修繕	外壁塗装・大屋根塗装, 玄関屋根修繕
9	岐阜ファミリーパーク体育館	50,000	部位修繕	非構造部材耐震補強
	体育ルーム	30,000	耐震補強	非構造部材耐震補強
	本荘市民プール	3,600	部位修繕	漏水工事, 屋根・外壁・内部仕上修繕
	南部市民プール	17,000	部位修繕	25mプール グレーチング修繕, 屋根・外壁・内部仕上修繕
	北部市民プール	72,600	部位修繕	プール水質コントローラー取付, プール槽改修, 外壁・内部仕上修繕
	合 計	982,300		

第6章 修繕・更新等に係る中長期的な経費の見込み

6-1 試算条件

ロードマップをもとに、長寿命化した場合の修繕・更新等に係る中長期的な見込み経費を試算します。

3.3-1(3) 更新に係る費用で先述した通り、従来型管理を実施した場合の維持管理費用は、総合管理計画と同様に更新費用を設定し、36万円/m²と設定しました。長寿命化した場合の更新費用も36万円/m²とし、予防修繕費用は更新費用の30%と仮定し10.8万円/m²と設定して中長期的な維持管理費用を算出します。

【単価の設定】

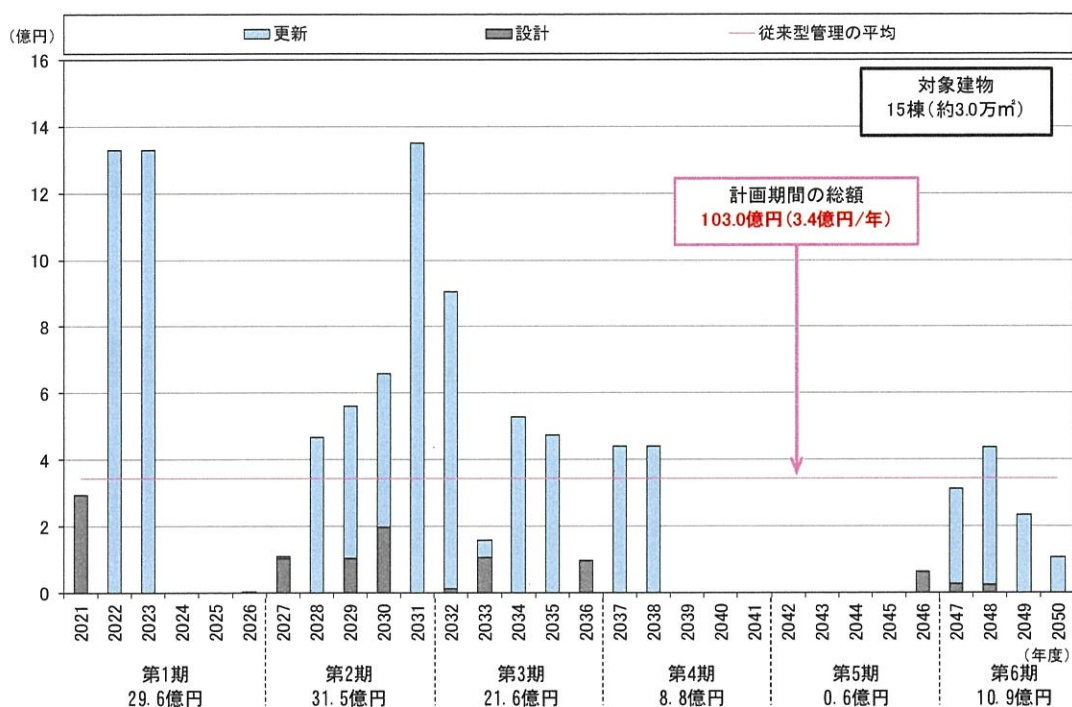
管理区分	維持管理方針	更新単価	予防修繕単価
従来型	耐用年数を迎えたら更新	36万円/m ²	—
長寿命化型	直近の5年間で部位修繕し、 その後は予防修繕	36万円/m ²	10.8万円/m ² (更新単価の30%)

6-2 今後30年間の対策費用と長寿命化によるコスト削減効果

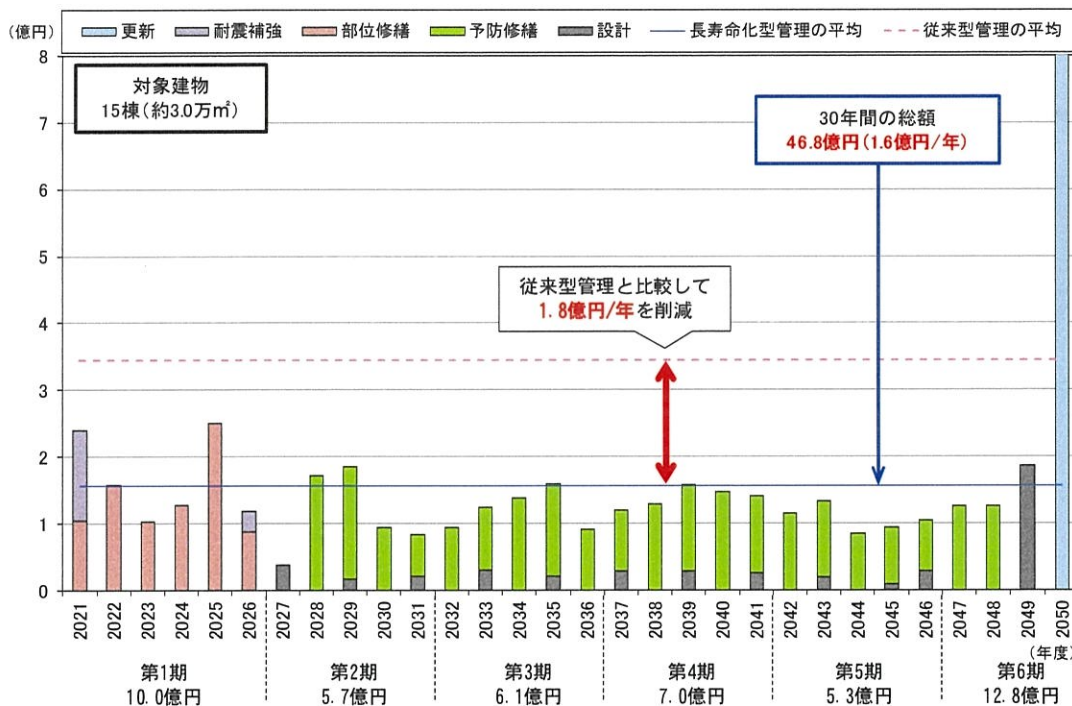
今後30年間の維持管理費用について、耐用年数を迎えたら更新する従来型管理と、予防修繕を行い長寿命化した場合のそれぞれの費用を算出し、比較します。

従来型管理の対策費用は、30年間の総額で103.0億円、年間平均で3.4億円/年となります。一方で、長寿命化した場合の費用は30年間の総額で46.8億円、年間平均で1.6億円/年となり、従来型管理と比較して1.8億円/年、約54%の削減効果があります。

【従来型管理の試算結果】



【長寿命化した場合の試算結果】

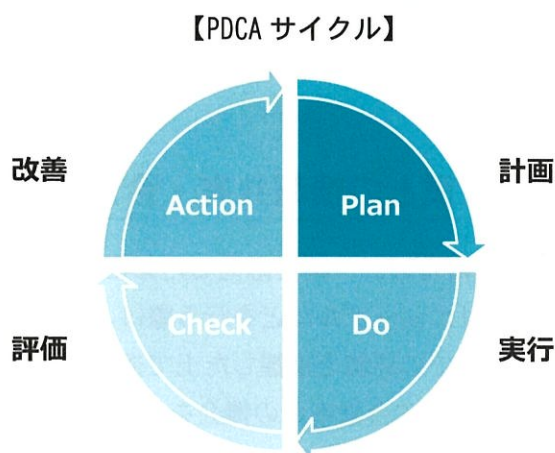


第7章 計画の実施方法

7-1 フォローアップの実施方針

本計画を実行性の高い計画として推進していくために、フォローアップを実施し、スポーツ施設の状況や財政・人口状況、市民ニーズの変化、近年激甚化する風水害や大規模地震に対する防災・減災対策などを踏まえ、定期的に計画全体の見直しを行う必要があります。

変化する社会情勢に対応し、時勢に合った計画として進めていくため、総合管理計画と同様に PDCA サイクルを活用した定期的な見直しを行っていきます。



7-2 推進・取組体制

本計画の推進部局である市民スポーツ課が中心となり、スポーツ施設を日常的に管理している指定管理者をはじめとしたすべての関係者が、適切な意思決定と合意形成に基づいて計画を推進していくための情報管理・共有を図り、各部局と連携しながら実行します。

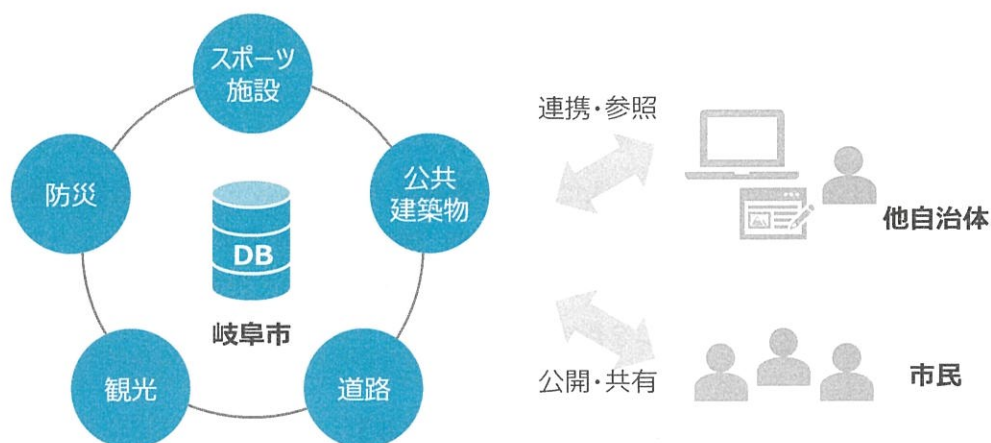
さらに、第2期以降の大規模な予防修繕等を進めて行くにあたっては、公共施設全体の再編を見据えて他施設との複合化等の検討が必要となると考えられることから、全庁的な体制を構築して取り組んでいきます。

7-3 情報の見える化

本計画で整理したスポーツ施設の情報を今後も継続して蓄積・整理し、「見える化」することで、施設運営の最適化を目指していきます。また、維持管理の実施にあたっては、スポーツ施設以外の公共建築物やインフラ・防災施設などの情報を含めて一元管理することで、各施設の計画との整合性に留意しながら合理的に進めていきます。

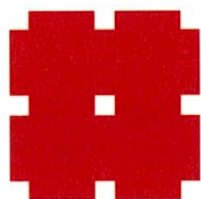
さらに、一連の取組の考え方や進捗状況は、市民の皆様へ広報やホームページを通じた情報共有を図るとともに、近隣自治体や岐阜県または国などの情報を先進事例として参考にするすることで、より良い維持管理へのデータ活用を図ります。

【情報の見える化イメージ】



7-4 施設利用者や住民との情報共有・合意形成の推進

時代とともに変化する施設利用者のニーズに応えるためには、市民の要望を把握することが不可欠です。第2期以降に大規模なリニューアルなどを行う際は、スポーツ施設に求められる機能を維持しつつ、市民ニーズや利用者目線での評価を把握した上で進めていくため、住民説明会やワークショップ、アンケートの実施等、市民との合意形成の機会を設けて取り組んでいきます。



岐阜市スポーツ施設個別施設計画

令和3年3月

発行：岐阜市ぎふ魅力づくり推進部

市民スポーツ課